

聖約の書 第一卷 百五十一

イ	ニ	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	二十
イ	ニ	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	二十

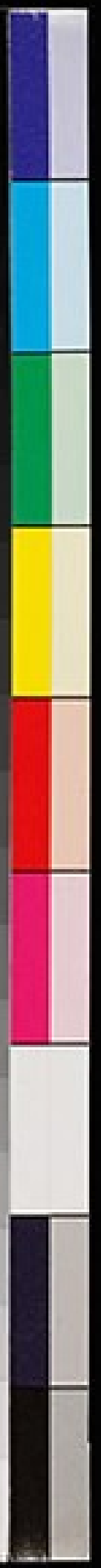
10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20

聖約の書 第一卷 百五十一

Handwritten notes in a cursive script.

Handwritten notes at the bottom of the page.

8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2



十五 ちらん多の人も亦ろの生るよに即て悦び有ん され此子達の前に大なら
 十六 又又種酒と種酒とを飲せば母の胎より生出て病に充さる 又イスクエ
 十七 列の民の多の人を主なる其前に仰す可れバ也 若しイサの心とけ給んば
 十八 下はの先に行ん其後心にならぬを遣れる者も数人の言に仰せまの
 十九 には事なる事を信んとなり ざかりア天使に曰けるハ我すべてに年を盡しよ
 二十 たり返されバ例に因て 此等あるを信ん 天使こたへて曰けるも我ハ
 二十一 此等とて此の時に立ちたり爾に認てこの喜の音を信ん爲に聞された
 二十二 れば 其時いたりて必ず彼へ我が言を信びざるに因なんぢ病となりて
 二十三 此等の成りよで言ふこと此の如し 民ざかりアを信んて其腹の内に久る氣
 二十四 む ざかりア出て言ふこと此の如し 民ざかりアを信んて其腹の内に久る氣
 二十五 たる事を曉たりざかりア衆人に首を以て 此の如し 民ざかりアを信んて其腹の内に久る氣
 二十六 の如し 民ざかりアを信んて其腹の内に久る氣 此の如し 民ざかりアを信んて其腹の内に久る氣
 二十七 月にして 曰けるハまわりの衆も人の中に聞せん衆に聞きたまふ時の如の

Handwritten notes in red ink at the top of the page.

Small handwritten note at the bottom of the page.



Mary & Butler, London

四〇	四一	四二	四三	四四	四五	四六	四七	四八	四九	五〇	五一	五二	五三	五四	五五	五六	五七	五八	五九	六〇	六一	六二	六三	六四	六五	六六	六七	六八	六九	七〇	七一	七二	七三	七四	七五	七六	七七	七八	七九	八〇	八一	八二	八三	八四	八五	八六	八七	八八	八九	九〇	九一	九二	九三	九四	九五	九六	九七	九八	九九	一〇〇
----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----

四〇 かくて この 六ヶ月 に 當リ ク マ リ タ カ ク 分 マ レ タ ト 告 ガ ル コ ト
 四一 テ 天 使 は マ リ ヤ シ テ カ ク カ ク マ ル ハ カ ク ト
 四二 云 フ ル コ ト カ ク マ ル ハ カ ク ト カ ク ト
 四三 云 フ ル コ ト カ ク マ ル ハ カ ク ト カ ク ト
 四四 云 フ ル コ ト カ ク マ ル ハ カ ク ト カ ク ト
 四五 云 フ ル コ ト カ ク マ ル ハ カ ク ト カ ク ト
 四六 云 フ ル コ ト カ ク マ ル ハ カ ク ト カ ク ト
 四七 云 フ ル コ ト カ ク マ ル ハ カ ク ト カ ク ト
 四八 云 フ ル コ ト カ ク マ ル ハ カ ク ト カ ク ト
 四九 云 フ ル コ ト カ ク マ ル ハ カ ク ト カ ク ト
 五〇 云 フ ル コ ト カ ク マ ル ハ カ ク ト カ ク ト
 五一 云 フ ル コ ト カ ク マ ル ハ カ ク ト カ ク ト
 五二 云 フ ル コ ト カ ク マ ル ハ カ ク ト カ ク ト
 五三 云 フ ル コ ト カ ク マ ル ハ カ ク ト カ ク ト
 五四 云 フ ル コ ト カ ク マ ル ハ カ ク ト カ ク ト
 五五 云 フ ル コ ト カ ク マ ル ハ カ ク ト カ ク ト
 五六 云 フ ル コ ト カ ク マ ル ハ カ ク ト カ ク ト
 五七 云 フ ル コ ト カ ク マ ル ハ カ ク ト カ ク ト
 五八 云 フ ル コ ト カ ク マ ル ハ カ ク ト カ ク ト
 五九 云 フ ル コ ト カ ク マ ル ハ カ ク ト カ ク ト
 六〇 云 フ ル コ ト カ ク マ ル ハ カ ク ト カ ク ト
 六一 云 フ ル コ ト カ ク マ ル ハ カ ク ト カ ク ト
 六二 云 フ ル コ ト カ ク マ ル ハ カ ク ト カ ク ト
 六三 云 フ ル コ ト カ ク マ ル ハ カ ク ト カ ク ト
 六四 云 フ ル コ ト カ ク マ ル ハ カ ク ト カ ク ト
 六五 云 フ ル コ ト カ ク マ ル ハ カ ク ト カ ク ト
 六六 云 フ ル コ ト カ ク マ ル ハ カ ク ト カ ク ト
 六七 云 フ ル コ ト カ ク マ ル ハ カ ク ト カ ク ト
 六八 云 フ ル コ ト カ ク マ ル ハ カ ク ト カ ク ト
 六九 云 フ ル コ ト カ ク マ ル ハ カ ク ト カ ク ト
 七〇 云 フ ル コ ト カ ク マ ル ハ カ ク ト カ ク ト
 七一 云 フ ル コ ト カ ク マ ル ハ カ ク ト カ ク ト
 七二 云 フ ル コ ト カ ク マ ル ハ カ ク ト カ ク ト
 七三 云 フ ル コ ト カ ク マ ル ハ カ ク ト カ ク ト
 七四 云 フ ル コ ト カ ク マ ル ハ カ ク ト カ ク ト
 七五 云 フ ル コ ト カ ク マ ル ハ カ ク ト カ ク ト
 七六 云 フ ル コ ト カ ク マ ル ハ カ ク ト カ ク ト
 七七 云 フ ル コ ト カ ク マ ル ハ カ ク ト カ ク ト
 七八 云 フ ル コ ト カ ク マ ル ハ カ ク ト カ ク ト
 七九 云 フ ル コ ト カ ク マ ル ハ カ ク ト カ ク ト
 八〇 云 フ ル コ ト カ ク マ ル ハ カ ク ト カ ク ト
 八一 云 フ ル コ ト カ ク マ ル ハ カ ク ト カ ク ト
 八二 云 フ ル コ ト カ ク マ ル ハ カ ク ト カ ク ト
 八三 云 フ ル コ ト カ ク マ ル ハ カ ク ト カ ク ト
 八四 云 フ ル コ ト カ ク マ ル ハ カ ク ト カ ク ト
 八五 云 フ ル コ ト カ ク マ ル ハ カ ク ト カ ク ト
 八六 云 フ ル コ ト カ ク マ ル ハ カ ク ト カ ク ト
 八七 云 フ ル コ ト カ ク マ ル ハ カ ク ト カ ク ト
 八八 云 フ ル コ ト カ ク マ ル ハ カ ク ト カ ク ト
 八九 云 フ ル コ ト カ ク マ ル ハ カ ク ト カ ク ト
 九〇 云 フ ル コ ト カ ク マ ル ハ カ ク ト カ ク ト
 九一 云 フ ル コ ト カ ク マ ル ハ カ ク ト カ ク ト
 九二 云 フ ル コ ト カ ク マ ル ハ カ ク ト カ ク ト
 九三 云 フ ル コ ト カ ク マ ル ハ カ ク ト カ ク ト
 九四 云 フ ル コ ト カ ク マ ル ハ カ ク ト カ ク ト
 九五 云 フ ル コ ト カ ク マ ル ハ カ ク ト カ ク ト
 九六 云 フ ル コ ト カ ク マ ル ハ カ ク ト カ ク ト
 九七 云 フ ル コ ト カ ク マ ル ハ カ ク ト カ ク ト
 九八 云 フ ル コ ト カ ク マ ル ハ カ ク ト カ ク ト
 九九 云 フ ル コ ト カ ク マ ル ハ カ ク ト カ ク ト
 一〇〇 云 フ ル コ ト カ ク マ ル ハ カ ク ト カ ク ト

Vertical text in the right margin, likely a reference or note.

Vertical text in the right margin, likely a reference or note.

8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2

聖書全書 聖書第一卷

子孫を定むこと定すして 其後イヌラエを杖持たまへり是の
 れらの父前に言はしむしが事なり マリアエラベラと居しこと三ヶ月
 ばかりにて己が家に歸りて ○ 彼はイサハンを産みちて男子を生り
 うの嗣息の者また彼國のもの主がエラベラに大なる怒態を發たまひし
 事を用て言に當べり 第八日に及れば彼女子に言問せんとて來り其父
 の名に因ザカリヤと名んとせしに 其母こたへて都て内らサハナと名べ
 しと曰ければ 彼等エラベラに別て曰けるハ爾い彼國の中にハ此名を
 名む者なし されらばに其次に論じて居いかに名んと欲い爾なるに 予
 カリヤと名を以て其名ハ 予と名をなすハ 予若等あり 予カリヤ
 の口たよちに啓て否とけ言ひて動を始なり うの嗣息に仕なる人々みな
 懐疑又すべて此事を聞くユダヤの山地に傳説されしハ 聞もの言これ
 を心に聽て此子の如何なる者にハ成んと曰り彼主の手かれと共に在り
 矣ザカリヤ無影に感され 既言して曰けるハ 主なるイヌラエの神ハ爾

聖書全書 聖書第一卷 出エジプト記 第二十章
 聖書全書 聖書第一卷 出エジプト記 第二十章
 聖書全書 聖書第一卷 出エジプト記 第二十章

子孫を定むこと定すして

三ヶ月

男子

怒態

言問

名べ

名む

欲い

爾なる

に

予

若等

あり

予

カリヤ

の

口

た

よ

ち

に

啓

て

否

と

け

言

ひ

て

動

を

始

なり

う

の

嗣

息

の

者

又

て

は

れ

る

も

の

主

が

エ

ラ

ベ

ラ

に

大

な

る

怒

態

を

發

た

ま

ひ

し

る

事

を

用

て

言

に

當

べ

り

第

八

日

に

及

け

れ

ば

彼

女

子

に

言

問

せ

ん

と

て

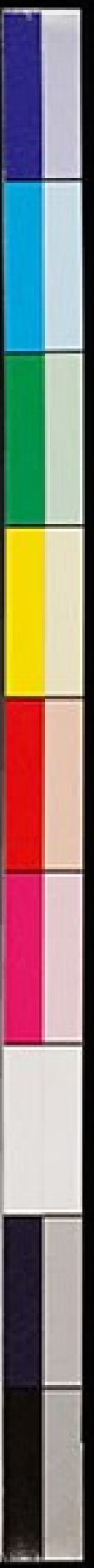
來

り

其

父

8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2



πρώτη ἀγάπη
(ἀγάπη πρώτη κτλ) 2-7

Α	Β	Γ	Δ	Ε	ΣΤ	Ζ	Η	Θ	Ι	Κ	Λ	Μ	Ν	Ξ	Ο	Π	Ρ	Σ	Τ	Υ	Φ	Χ	Ψ	Ω
Α	Β	Γ	Δ	Ε	ΣΤ	Ζ	Η	Θ	Ι	Κ	Λ	Μ	Ν	Ξ	Ο	Π	Ρ	Σ	Τ	Υ	Φ	Χ	Ψ	Ω
Α	Β	Γ	Δ	Ε	ΣΤ	Ζ	Η	Θ	Ι	Κ	Λ	Μ	Ν	Ξ	Ο	Π	Ρ	Σ	Τ	Υ	Φ	Χ	Ψ	Ω

Handwritten marginal notes in red ink, including the phrase "ἀγάπη πρώτη κτλ" and other scriptural references.

百五十六

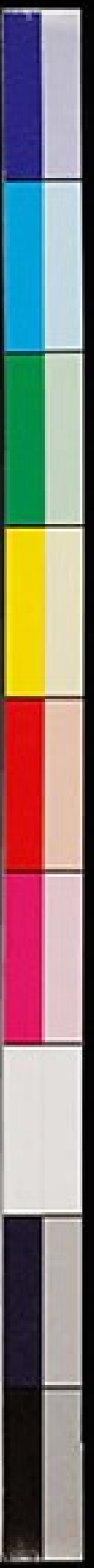
諸君の心をなだめしむるに
しるすに、この書は、

ヨハネ	ルカ	マテ	マル	ルカ	ヨハネ	ヨハネ	ヨハネ	ヨハネ	ヨハネ
ヨハネ	ルカ	マテ	マル	ルカ	ヨハネ	ヨハネ	ヨハネ	ヨハネ	ヨハネ
ヨハネ	ルカ	マテ	マル	ルカ	ヨハネ	ヨハネ	ヨハネ	ヨハネ	ヨハネ

8940123456789



8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2



十七	に臥たる嬰兒に誘惑り 既に見て此子につき 天使の語じ奉るを捕縛せられバ
十八	聞者みな羊を牧者の語る羊を青みたり
十九	實て惡徳なる 羊を牧者の見聞せる所みな惡に誘はれ所勿の如なるにより
二十	神を擧げつ讚美て居たり
二十一	其いと妙に爲さる先 天の使者の稱し如く名をイエスを稱たり
二十二	一々の律法に擧げて居り 拾ひて嬰兒を擧て主に獻ん
二十三	に上れり 是等の例に初に生るゝ男子へ主の使者を稱へしと録されたる
二十四	が如し 又主の律法に在りて一變あるのみ
二十五	謂ひて榮華行ん事なり
二十六	我がつ救ありてイノケキヤの民の聖められん事を俟る者なり 聖靈の上
二十七	に居り 又主のキリストを見ざる間へ
二十八	罪に感じて 入りて觀るの子イエスを律法の例に擧げて行へん
二十九	榮りしに

此の節は...

聖書の巻...

聖書の巻...

Handwritten text in the left margin, likely commentary or a different translation of the same passage.

ついでに安らかに眠るに任せ給ふ。且日すでに國民の衆に設たまひし

ひて民を安らかに眠るに任せ給ふ。且日すでに國民の衆に設たまひし
見たり。これ異邦人を悪まん死なり。また國の民イスラエルの衆は、
その火刑の煙に就て語る事と許されり。又ケメロン等々を見て其情マ
リアに曰ひけるハ此嬰兒ハイスラエルの多の人の罪ノ重キモノ也。故と
決ん其體に立らる。これ衆の心の念の還れんが爲なり。又其なんぢ
シメオン云々云々。アモル^{シメオン}の文はバメセルの女にアコトと云る。復若あり故
ハ其老嫗なり其處女なりと云夫に讀て七年ともにはたり。この老女ハ
齡おほより六十四歳の齡なりしが歎を給す復ら其言ハ新舊を尋て時
に事ハ此時この老女も獨に立て主を讚美しバメラニ云く。我を産
ルの人此子の事を語れり。○主の律法に對ひて恐く交ければ、ア
の己は芭ナヤレに歸たり。其子ハ其時其處に如思から其時
彼の如く是に歸り。○備うの觀望等々に遊遊の道路にエルサレムに住む
彼の十二歳の時また聖殿の外に舞ひエケキレムに上れり。其處の日卒



8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2

イリヤ (Elijah) 行方を尋ねて見出さず
アハサ (Ahasa) 王の命に背き
アハサ (Ahasa) 王の命に背き
アハサ (Ahasa) 王の命に背き

て逃仕けるに、**イリヤ** (Elijah) 行方を尋ねて見出さず
アハサ (Ahasa) 王の命に背き
アハサ (Ahasa) 王の命に背き

中行人の中に在ならんと感じ一日程を行て親戚知人の者に遇しが
 逃りければ彼を尋ねて**メルラ** (Merla) に遇り 三日のち路にて遇ハハ
 の中ふ念む且隠がつ聞かたり 隠者みな其罪惡と其罪對とを告とせり
 所観されを見て疑さゆかれに行けるの子と母を我前には此行たるの
 父と責を蒙て罪をせたり **イメス** 許けるは何故われを尋るや我ハ我父の
 下りテアに歸て汝等に預かり 然と附觀へ其語る事を疑す **イメス** 此れと共に
 下りテアに歸て汝等に預かり 然と附觀へ其語る事を疑す **イメス** 此れと共に

なりて**アハサ** (Ahasa) 王の命に背き
アハサ (Ahasa) 王の命に背き
アハサ (Ahasa) 王の命に背き



Handwritten text in the left margin, likely a commentary or additional notes related to the main text.

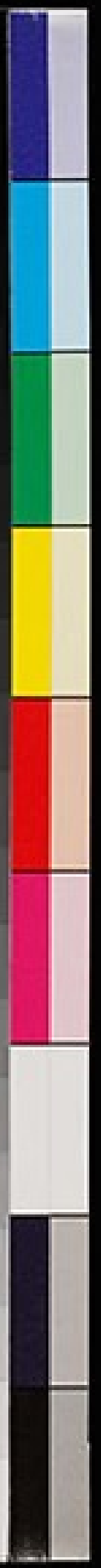
8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2

アモス書
第二章
第二十一節

二	會合を受	コレノツの	なる	國方の	地に	來り	耶の	敵を	得させん	が	爲に	萬		
三	敵の	イブ	アスマ	を	正	傳たり	眞	言る	イザ	ヤの	言を	聽たる	衆に	耶
四	人の	爲り	爲く	諸の	言	多の	彼を	報	たり	衆の	欲	の	衆の	由
五	衆は	に	服	服	たる	入	衆の	入	衆の	人	入	衆の	衆	衆
六	衆有	衆	衆	衆	衆	衆	衆	衆	衆	衆	衆	衆	衆	衆
七	衆	衆	衆	衆	衆	衆	衆	衆	衆	衆	衆	衆	衆	衆
八	衆	衆	衆	衆	衆	衆	衆	衆	衆	衆	衆	衆	衆	衆
九	衆	衆	衆	衆	衆	衆	衆	衆	衆	衆	衆	衆	衆	衆
十	衆	衆	衆	衆	衆	衆	衆	衆	衆	衆	衆	衆	衆	衆
十一	衆	衆	衆	衆	衆	衆	衆	衆	衆	衆	衆	衆	衆	衆
十二	衆	衆	衆	衆	衆	衆	衆	衆	衆	衆	衆	衆	衆	衆



8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2



Handwritten notes in red ink at the top of the page, including the word 'BIOGRAPH' and other illegible characters.

1	けるハ人を強ひて成へば 區ることを為さず 是れは 國の神聖なるを以て
2	と爲べし ○ 民衆を治むるは 衆人みな心に 國を愛するに在りて
3	と付度たりしに 國に之に 答ひしけるは 我の心を以て 國を愛するに
4	君に 臨へり我より 貴方ある者きたらん 我ハ其國を 國にも是す 國ハ
5	我を以て 國を愛するに 國に 臨へん 手に 我を以て 其國を 國め
6	へ 故て 其國に 我の 故なる 故にて 國を 愛す 國に 我を 以て 國を
7	なし 國を 民に 宣傳たり 國を 分國の 君なる 國を 愛する 國の 故
8	ヘロデヤの 事と び 國を 愛する 國を 國に 貴られければ 國を 愛す
9	國を 加ヘロデヤを 以て 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に
10	國を 加ヘロデヤを 受て 國を 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に
11	國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に
12	國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に
13	國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に
14	國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に
15	國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に
16	國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に
17	國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に
18	國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に
19	國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に
20	國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に
21	國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に
22	國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に
23	國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に
24	國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に
25	國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に
26	國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に
27	國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に
28	國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に
29	國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に
30	國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に 國に

Handwritten text in the left margin, including the word 'BIOGRAPH' and other illegible characters.

8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2

• BICORP
 二の

• AROIND
 二の

• BATH
 二の

• BATH
 二の

• BATH
 二の

• BATH
 二の

• BATH
 二の

• BATH
 二の

• BATH
 二の

• BATH
 二の

• BATH
 二の

• BATH
 二の

• BATH
 二の

• BATH
 二の

• BATH
 二の

• BATH
 二の

• BATH
 二の

• BATH
 二の

• BATH
 二の

• BATH
 二の

• BATH
 二の

• BATH
 二の

• BATH
 二の

• BATH
 二の

レマの其父のサタン其父のメノス其父のヤク其父のアドムテゲムハ
 ちの子なり

路加傳第四章 自一至十二節

路加傳第四章 自一至十二節

路加傳第四章 自一至十二節

路加傳第四章 自一至十二節

路加傳第四章 自一至十二節

路加傳第四章 自一至十二節

路加傳第四章 自一至十二節

路加傳第四章 自一至十二節

路加傳第四章 自一至十二節

路加傳第四章 自一至十二節

路加傳第四章 自一至十二節

路加傳第四章 自一至十二節

路加傳第四章 自一至十二節

路加傳第四章 自一至十二節

路加傳第四章 自一至十二節

路加傳第四章 自一至十二節

路加傳第四章 自一至十二節

路加傳第四章 自一至十二節

路加傳第四章 自一至十二節

路加傳第四章 自一至十二節

路加傳第四章 自一至十二節

路加傳第四章 自一至十二節

路加傳第四章 自一至十二節

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100



8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2

聖書の巻 第五巻 白州六次郎三郎 百六十七

三六	見つひに其人を衆の中に合し創すして曰 衆人みな駭き互に問ひける	三六	見つひに其人を衆の中に合し創すして曰 衆人みな駭き互に問ひける
三七	ハ 爾輩と命力をもて得たる衆に命ぜりしかば出たり是いつたる衆や 是に於	三七	ハ 爾輩と命力をもて得たる衆に命ぜりしかば出たり是いつたる衆や 是に於
三八	てイエスの聲をまよしく此四方の地に報りぬ ○ イエス會堂を出てシモン	三八	てイエスの聲をまよしく此四方の地に報りぬ ○ イエス會堂を出てシモン
三九	の家に入ると <u>シモンの妻</u> <u>を</u> <u>まよしく</u> <u>召喚</u> <u>を</u> <u>思ひ</u> <u>居たり</u> 衆人これらにイエス	三九	の家に入ると <u>シモンの妻</u> <u>を</u> <u>まよしく</u> <u>召喚</u> <u>を</u> <u>思ひ</u> <u>居たり</u> 衆人これらにイエス
四〇	に來じれば其 傍に 立て 彼を 斥けしに 彼 返りり 然らば 追て 彼等 に 報たり	四〇	に來じれば其 傍に 立て 彼を 斥けしに 彼 返りり 然らば 追て 彼等 に 報たり
四一	の 入るまき 會堂の 前を 過たる 者 多し 衆人 其を イエス に 報 告 せ ば	四一	の 入るまき 會堂の 前を 過たる 者 多し 衆人 其を イエス に 報 告 せ ば
四二	うの上にて手を按て置せり 聖鬼も亦多の人々を出さり 曠野の野の野	四二	うの上にて手を按て置せり 聖鬼も亦多の人々を出さり 曠野の野の野
四三	またりく入り 然に之を斥て置よと云容さりき 聖鬼々の入りすと なるを 衆	四三	またりく入り 然に之を斥て置よと云容さりき 聖鬼々の入りすと なるを 衆
四四	人なり ○ 明且 イエス 出て 人々を 衆に 引けれバ 衆人 尋 索 せ ば 其 離 去 せ ば 止 じ	四四	人なり ○ 明且 イエス 出て 人々を 衆に 引けれバ 衆人 尋 索 せ ば 其 離 去 せ ば 止 じ
四五	イエス 曰 ける ハ 我 々 天 使 の 群 衆 に 奉 祭 の 國 の 皇 帝 を 宣 傳 せ ば 其 得 ず 置 け	四五	イエス 曰 ける ハ 我 々 天 使 の 群 衆 に 奉 祭 の 國 の 皇 帝 を 宣 傳 せ ば 其 得 ず 置 け
四六	れ 之 が 爲 に 遣 送 せ ざ ざ る べ 也 爾 後 耶 路 撒 冷 の 會 堂 に 進 出 せ ば 宣 傳 せ ば	四六	れ 之 が 爲 に 遣 送 せ ざ ざ る べ 也 爾 後 耶 路 撒 冷 の 會 堂 に 進 出 せ ば 宣 傳 せ ば
四七	衆 人 皆 衆 人 衆 の 道 を 踏 ん だ ず 踏 踏 ける 時 イエス が 耶 路 撒 冷 の 道 の 邊 に 立 ち	四七	衆 人 皆 衆 人 衆 の 道 を 踏 ん だ ず 踏 踏 ける 時 イエス が 耶 路 撒 冷 の 道 の 邊 に 立 ち
四八	衆に 二 般 の 心 有 る 者 を 見 る 驗 の 者 へ 力 を 懸 け 衆 を 説 け ば 衆 人 皆 衆 人 衆	四八	衆に 二 般 の 心 有 る 者 を 見 る 驗 の 者 へ 力 を 懸 け 衆 を 説 け ば 衆 人 皆 衆 人 衆

Indaholagen 1602 From the end the portable of handiwork, ...
 the famous early Christian symbols of the Fish 12072
 1900s Xposed Gold Tiber 1000g

No.	Description	Symbol	Meaning	Symbol	Meaning	Symbol	Meaning	Symbol	Meaning	Symbol	Meaning
21	A fish	[Symbol]	Jesus	[Symbol]	Jesus	[Symbol]	Jesus	[Symbol]	Jesus	[Symbol]	Jesus
22	A fish	[Symbol]	Jesus	[Symbol]	Jesus	[Symbol]	Jesus	[Symbol]	Jesus	[Symbol]	Jesus
23	A fish	[Symbol]	Jesus	[Symbol]	Jesus	[Symbol]	Jesus	[Symbol]	Jesus	[Symbol]	Jesus
24	A fish	[Symbol]	Jesus	[Symbol]	Jesus	[Symbol]	Jesus	[Symbol]	Jesus	[Symbol]	Jesus
25	A fish	[Symbol]	Jesus	[Symbol]	Jesus	[Symbol]	Jesus	[Symbol]	Jesus	[Symbol]	Jesus
26	A fish	[Symbol]	Jesus	[Symbol]	Jesus	[Symbol]	Jesus	[Symbol]	Jesus	[Symbol]	Jesus
27	A fish	[Symbol]	Jesus	[Symbol]	Jesus	[Symbol]	Jesus	[Symbol]	Jesus	[Symbol]	Jesus

[Faint, illegible text from the adjacent page]

8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2

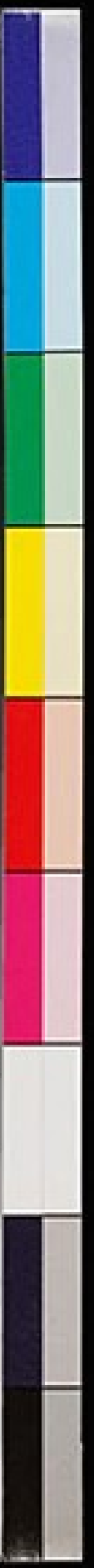


8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2

三三	彼の人に我なんちに會ふきて我なり家に歸れと曰ければ ちの人衆の	三三	又十八の十一
三二	軌にて直に越て臥居たる我をとり我を擧て己が家に歸ぬ 衆人みな馳	三一	又十八の十
三一	て我を擧つ大に異言て曰けるハ我彼今日流異なる事を見たり	三〇	又十八の九
三〇	イエス出て 〇と云る我世の税關に坐し居けるを見て我に從へと曰けれ	二九	又十八の八
二九	バ レビ一員を捨ちよ越て從へリ レビ己の家にてイエスの爲に營處な	二八	又十八の七
二八	る事を説きに役也また 施の人々も共に坐したる者多かりければ 其	二七	又十八の六
二七	衆の學者とパリサイの人々も 弟子に教訓いけるハ爾等復更また爾等	二六	又十八の五
二六	る人々と共に食飲するハ何故ナ イエス答て曰けるハ爾等なる者ハ爾等	二五	又十八の四
二五	の爲に爾等世辭のみをいひ 〇が來るハ義人も召く我に非ず爾等	二四	又十八の三
二四	る人を召て 協政せんが爲なり 彼等イエスに曰けるハモハテの弟子ハ	二三	又十八の二
二三	何 〇また爾等もなすパリサイの弟子も亦然り然るに爾の弟子飲こと食	二二	又十八の一
二二	ことを爲すハ何故ナ イエス曰けるハ爾等の所がタの對するハ此に爾等	二一	又十八の十
二一	ハ此に爾等食なすもむむる事を行んや 爾等爾等と別るよ曰いたらん其日に	二〇	又十八の九

Handwritten notes in the left margin, including red ink markings and vertical text.

8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2



馬の全書 馬の節 第六段 自九百五十九節 七百七十一

+ HACH	<p>11 ちの意をたて手なへたる人に對て申に或こと曰ければ其人をきて取り イエス曰ける「彼なんぢらに與んぬ意に從ふ所を行ふ事又かゝる こと致し給ふべし」 12 といふに手なへたる者をして彼の手に給ふ事なれり 13 當時イエス新約の日に前に在りて其手に 14 執たり 夜明てイエス弟子を時うの中より十二人を選て之を信託し 15 賜ふにハセロと名たまひしヨハンの兄弟アルテマ及びヤコブとロムスビ 16 リガとバネトとロマイ マタイとトマスアルバイの子なるヤコブとセロガ 17 と云るヤコブ ヤコブの兄弟とトマスアルバイの子なるヤコブとセロガ 18 イエスに與たる者なり イエスは是等を見にして平かなる顔に立しに許多 19 の弟子を召むる人々ヤコブの四方またエルサレム及テロコトンの諸處より 20 來りて彼の教を聽んども其の信を賜はれん事を欲へり 又また 21 到されたる者ありて彼を聽されたり 又またイエスに到らんとして</p>
+ MATTHEW	<p>22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100</p>
+ MARK	<p>101 102 103 104 105 106 107 108 109 110 111 112 113 114 115 116 117 118 119 120 121 122 123 124 125 126 127 128 129 130 131 132 133 134 135 136 137 138 139 140 141 142 143 144 145 146 147 148 149 150 151 152 153 154 155 156 157 158 159 160 161 162 163 164 165 166 167 168 169 170 171 172 173 174 175 176 177 178 179 180 181 182 183 184 185 186 187 188 189 190 191 192 193 194 195 196 197 198 199 200</p>
+ LUKE	<p>201 202 203 204 205 206 207 208 209 210 211 212 213 214 215 216 217 218 219 220 221 222 223 224 225 226 227 228 229 230 231 232 233 234 235 236 237 238 239 240 241 242 243 244 245 246 247 248 249 250 251 252 253 254 255 256 257 258 259 260 261 262 263 264 265 266 267 268 269 270 271 272 273 274 275 276 277 278 279 280 281 282 283 284 285 286 287 288 289 290 291 292 293 294 295 296 297 298 299 300</p>
+ JOHN	<p>301 302 303 304 305 306 307 308 309 310 311 312 313 314 315 316 317 318 319 320 321 322 323 324 325 326 327 328 329 330 331 332 333 334 335 336 337 338 339 340 341 342 343 344 345 346 347 348 349 350 351 352 353 354 355 356 357 358 359 360 361 362 363 364 365 366 367 368 369 370 371 372 373 374 375 376 377 378 379 380 381 382 383 384 385 386 387 388 389 390 391 392 393 394 395 396 397 398 399 400</p>
+ ROMAN	<p>401 402 403 404 405 406 407 408 409 410 411 412 413 414 415 416 417 418 419 420 421 422 423 424 425 426 427 428 429 430 431 432 433 434 435 436 437 438 439 440 441 442 443 444 445 446 447 448 449 450 451 452 453 454 455 456 457 458 459 460 461 462 463 464 465 466 467 468 469 470 471 472 473 474 475 476 477 478 479 480 481 482 483 484 485 486 487 488 489 490 491 492 493 494 495 496 497 498 499 500</p>
+ CORINTH	<p>501 502 503 504 505 506 507 508 509 510 511 512 513 514 515 516 517 518 519 520 521 522 523 524 525 526 527 528 529 530 531 532 533 534 535 536 537 538 539 540 541 542 543 544 545 546 547 548 549 550 551 552 553 554 555 556 557 558 559 560 561 562 563 564 565 566 567 568 569 570 571 572 573 574 575 576 577 578 579 580 581 582 583 584 585 586 587 588 589 590 591 592 593 594 595 596 597 598 599 600</p>
+ GALATIAN	<p>601 602 603 604 605 606 607 608 609 610 611 612 613 614 615 616 617 618 619 620 621 622 623 624 625 626 627 628 629 630 631 632 633 634 635 636 637 638 639 640 641 642 643 644 645 646 647 648 649 650 651 652 653 654 655 656 657 658 659 660 661 662 663 664 665 666 667 668 669 670 671 672 673 674 675 676 677 678 679 680 681 682 683 684 685 686 687 688 689 690 691 692 693 694 695 696 697 698 699 700</p>
+ EPHESIAN	<p>701 702 703 704 705 706 707 708 709 710 711 712 713 714 715 716 717 718 719 720 721 722 723 724 725 726 727 728 729 730 731 732 733 734 735 736 737 738 739 740 741 742 743 744 745 746 747 748 749 750 751 752 753 754 755 756 757 758 759 760 761 762 763 764 765 766 767 768 769 770 771 772 773 774 775 776 777 778 779 780 781 782 783 784 785 786 787 788 789 790 791 792 793 794 795 796 797 798 799 800</p>
+ PHILIPPIAN	<p>801 802 803 804 805 806 807 808 809 810 811 812 813 814 815 816 817 818 819 820 821 822 823 824 825 826 827 828 829 830 831 832 833 834 835 836 837 838 839 840 841 842 843 844 845 846 847 848 849 850 851 852 853 854 855 856 857 858 859 860 861 862 863 864 865 866 867 868 869 870 871 872 873 874 875 876 877 878 879 880 881 882 883 884 885 886 887 888 889 890 891 892 893 894 895 896 897 898 899 900</p>
+ COLLOSSIAN	<p>901 902 903 904 905 906 907 908 909 910 911 912 913 914 915 916 917 918 919 920 921 922 923 924 925 926 927 928 929 930 931 932 933 934 935 936 937 938 939 940 941 942 943 944 945 946 947 948 949 950 951 952 953 954 955 956 957 958 959 960 961 962 963 964 965 966 967 968 969 970 971 972 973 974 975 976 977 978 979 980 981 982 983 984 985 986 987 988 989 990 991 992 993 994 995 996 997 998 999 1000</p>
+ THIMOTHY	<p>1001 1002 1003 1004 1005 1006 1007 1008 1009 1010 1011 1012 1013 1014 1015 1016 1017 1018 1019 1020 1021 1022 1023 1024 1025 1026 1027 1028 1029 1030 1031 1032 1033 1034 1035 1036 1037 1038 1039 1040 1041 1042 1043 1044 1045 1046 1047 1048 1049 1050 1051 1052 1053 1054 1055 1056 1057 1058 1059 1060 1061 1062 1063 1064 1065 1066 1067 1068 1069 1070 1071 1072 1073 1074 1075 1076 1077 1078 1079 1080 1081 1082 1083 1084 1085 1086 1087 1088 1089 1090 1091 1092 1093 1094 1095 1096 1097 1098 1099 1100</p>
+ HEBREW	<p>1101 1102 1103 1104 1105 1106 1107 1108 1109 1110 1111 1112 1113 1114 1115 1116 1117 1118 1119 1120 1121 1122 1123 1124 1125 1126 1127 1128 1129 1130 1131 1132 1133 1134 1135 1136 1137 1138 1139 1140 1141 1142 1143 1144 1145 1146 1147 1148 1149 1150 1151 1152 1153 1154 1155 1156 1157 1158 1159 1160 1161 1162 1163 1164 1165 1166 1167 1168 1169 1170 1171 1172 1173 1174 1175 1176 1177 1178 1179 1180 1181 1182 1183 1184 1185 1186 1187 1188 1189 1190 1191 1192 1193 1194 1195 1196 1197 1198 1199 1200</p>

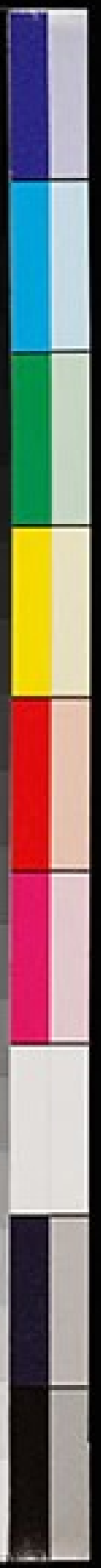
8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2

要約全集 第六巻 自由新聞

THEOREM	二	カの取捨に依りて可なり。又、 <u>取捨に依りて可なり。</u> イニ、目を奪ふ子を見て曰く、 <u>取捨に依りて可なり。</u> 取捨に依りて可なり。取捨に依りて可なり。
PROPOSITION	三	取捨に依りて可なり。取捨に依りて可なり。取捨に依りて可なり。取捨に依りて可なり。
LEMMA	四	取捨に依りて可なり。取捨に依りて可なり。取捨に依りて可なり。取捨に依りて可なり。
COROLLARY	五	取捨に依りて可なり。取捨に依りて可なり。取捨に依りて可なり。取捨に依りて可なり。
DEFINITION	六	取捨に依りて可なり。取捨に依りて可なり。取捨に依りて可なり。取捨に依りて可なり。
EXAMPLE	七	取捨に依りて可なり。取捨に依りて可なり。取捨に依りて可なり。取捨に依りて可なり。
NOTE	八	取捨に依りて可なり。取捨に依りて可なり。取捨に依りて可なり。取捨に依りて可なり。
SOLUTION	九	取捨に依りて可なり。取捨に依りて可なり。取捨に依りて可なり。取捨に依りて可なり。
PROBLEM	十	取捨に依りて可なり。取捨に依りて可なり。取捨に依りて可なり。取捨に依りて可なり。
PROPOSITION	十一	取捨に依りて可なり。取捨に依りて可なり。取捨に依りて可なり。取捨に依りて可なり。
LEMMA	十二	取捨に依りて可なり。取捨に依りて可なり。取捨に依りて可なり。取捨に依りて可なり。
COROLLARY	十三	取捨に依りて可なり。取捨に依りて可なり。取捨に依りて可なり。取捨に依りて可なり。
DEFINITION	十四	取捨に依りて可なり。取捨に依りて可なり。取捨に依りて可なり。取捨に依りて可なり。
EXAMPLE	十五	取捨に依りて可なり。取捨に依りて可なり。取捨に依りて可なり。取捨に依りて可なり。
NOTE	十六	取捨に依りて可なり。取捨に依りて可なり。取捨に依りて可なり。取捨に依りて可なり。
SOLUTION	十七	取捨に依りて可なり。取捨に依りて可なり。取捨に依りて可なり。取捨に依りて可なり。
PROBLEM	十八	取捨に依りて可なり。取捨に依りて可なり。取捨に依りて可なり。取捨に依りて可なり。

取捨に依りて可なり。

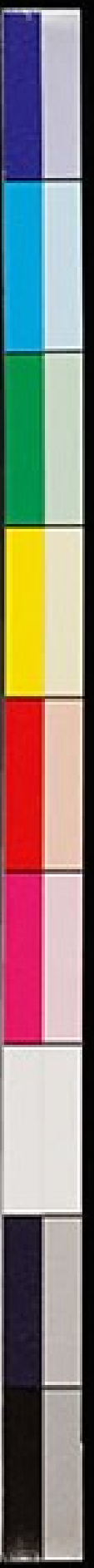
8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2



21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100

Handwritten text in the left margin, including a large red initial 'E' and other annotations.

8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2



百七十四 自注三例十三

いひけるハ此輩を求る人ハ諸人ナリ 我民を受じ我民の爲に此輩を行ハ
 ン イエス我等と共に往て彼や其家に送けると云 百夫の兵勇友を遣て
 日せけるハ主と自己を執取こと勿れ我が爲に入來るハ多し 故に
 我心等の前にも執取あり 第一言をあたとハテ遺棄ハせん 云のれんハ
 權威の下に屬る者なるに我下にのみ執取ありて此に往て命を奪ひに來ん
 命を來る兵勇に之を行と命を奪ち行が故なり イエス聞て之を責め
 人々を顧て口けるハ我なんぢらに我んイエスマンの中にしてし我を
 遣に遣りしハ 遣されたる者家に歸て執たりし我を遣ハ己に全し
 ませり ○ 是の云はに往けるに諸多の事あるよせ此の
 の人々し我に往り 己の門に送つしとき 許さざるも我あり 遣へ
 にて此ハ 我を遣り己の人々をこれに遣ふ 我を遣て我を遣ないれ
 日て 近より我民に手を取れ 遣る者もし我れ何イエス日けるハ少
 我なんぢに命を奪ふ 我たる者遣て且爾の遣じイエス之を其部に遣

まはしめられたる
 兵勇は我を
 遣るべし

百七十四
 自注三例十三

Handwritten text on the left page, partially obscured by the binding.

8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2

福音全書 第七卷 百十六卷

二十六	ヨハネが	ヨハネが	ヨハネが
二七	ヨハネが	ヨハネが	ヨハネが
二八	ヨハネが	ヨハネが	ヨハネが
二九	ヨハネが	ヨハネが	ヨハネが
三〇	ヨハネが	ヨハネが	ヨハネが
三一	ヨハネが	ヨハネが	ヨハネが
三二	ヨハネが	ヨハネが	ヨハネが
三三	ヨハネが	ヨハネが	ヨハネが
三四	ヨハネが	ヨハネが	ヨハネが
三五	ヨハネが	ヨハネが	ヨハネが
三六	ヨハネが	ヨハネが	ヨハネが
三七	ヨハネが	ヨハネが	ヨハネが
三八	ヨハネが	ヨハネが	ヨハネが
三九	ヨハネが	ヨハネが	ヨハネが
四〇	ヨハネが	ヨハネが	ヨハネが
四一	ヨハネが	ヨハネが	ヨハネが
四二	ヨハネが	ヨハネが	ヨハネが
四三	ヨハネが	ヨハネが	ヨハネが
四四	ヨハネが	ヨハネが	ヨハネが
四五	ヨハネが	ヨハネが	ヨハネが
四六	ヨハネが	ヨハネが	ヨハネが
四七	ヨハネが	ヨハネが	ヨハネが
四八	ヨハネが	ヨハネが	ヨハネが
四九	ヨハネが	ヨハネが	ヨハネが
五〇	ヨハネが	ヨハネが	ヨハネが

ヨハネが

ヨハネが

8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2



象約全書 路加傳 第七章 百廿七章用七百

百七十八

1. **TRAIT**
 2. **TRAIT**
 3. **TRAIT**
 4. **TRAIT**
 5. **TRAIT**
 6. **TRAIT**
 7. **TRAIT**
 8. **TRAIT**
 9. **TRAIT**
 10. **TRAIT**
 11. **TRAIT**
 12. **TRAIT**
 13. **TRAIT**
 14. **TRAIT**
 15. **TRAIT**
 16. **TRAIT**
 17. **TRAIT**
 18. **TRAIT**
 19. **TRAIT**
 20. **TRAIT**
 21. **TRAIT**
 22. **TRAIT**
 23. **TRAIT**
 24. **TRAIT**
 25. **TRAIT**
 26. **TRAIT**
 27. **TRAIT**
 28. **TRAIT**
 29. **TRAIT**
 30. **TRAIT**
 31. **TRAIT**
 32. **TRAIT**
 33. **TRAIT**
 34. **TRAIT**
 35. **TRAIT**
 36. **TRAIT**
 37. **TRAIT**
 38. **TRAIT**
 39. **TRAIT**
 40. **TRAIT**
 41. **TRAIT**
 42. **TRAIT**
 43. **TRAIT**
 44. **TRAIT**
 45. **TRAIT**
 46. **TRAIT**
 47. **TRAIT**
 48. **TRAIT**
 49. **TRAIT**
 50. **TRAIT**
 51. **TRAIT**
 52. **TRAIT**
 53. **TRAIT**
 54. **TRAIT**
 55. **TRAIT**
 56. **TRAIT**
 57. **TRAIT**
 58. **TRAIT**
 59. **TRAIT**
 60. **TRAIT**
 61. **TRAIT**
 62. **TRAIT**
 63. **TRAIT**
 64. **TRAIT**
 65. **TRAIT**
 66. **TRAIT**
 67. **TRAIT**
 68. **TRAIT**
 69. **TRAIT**
 70. **TRAIT**
 71. **TRAIT**
 72. **TRAIT**
 73. **TRAIT**
 74. **TRAIT**
 75. **TRAIT**
 76. **TRAIT**
 77. **TRAIT**
 78. **TRAIT**
 79. **TRAIT**
 80. **TRAIT**
 81. **TRAIT**
 82. **TRAIT**
 83. **TRAIT**
 84. **TRAIT**
 85. **TRAIT**
 86. **TRAIT**
 87. **TRAIT**
 88. **TRAIT**
 89. **TRAIT**
 90. **TRAIT**
 91. **TRAIT**
 92. **TRAIT**
 93. **TRAIT**
 94. **TRAIT**
 95. **TRAIT**
 96. **TRAIT**
 97. **TRAIT**
 98. **TRAIT**
 99. **TRAIT**
 100. **TRAIT**

Handwritten text in a cursive script, likely a continuation of the main text or a commentary.

Subscripted
 by general 214

マリアの心は
 神を信じた
 神の子を
 信じた
 神の子を
 信じた

八
 七
 六
 五
 四
 三
 二
 一
 十

八
 七
 六
 五
 四
 三
 二
 一
 十

八
 七
 六
 五
 四
 三
 二
 一
 十

八
 七
 六
 五
 四
 三
 二
 一
 十

八
 七
 六
 五
 四
 三
 二
 一
 十

八
 七
 六
 五
 四
 三
 二
 一
 十

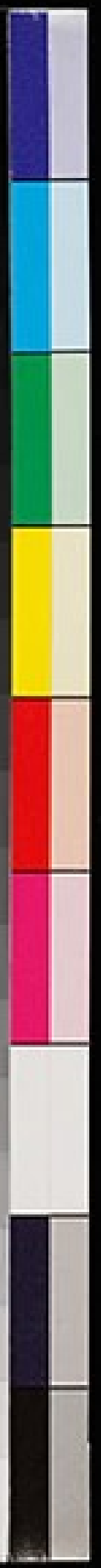
八
 七
 六
 五
 四
 三
 二
 一
 十

八
 七
 六
 五
 四
 三
 二
 一
 十

八
 七
 六
 五
 四
 三
 二
 一
 十

第七卷 自然八至四十七節
 百七十九

8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2

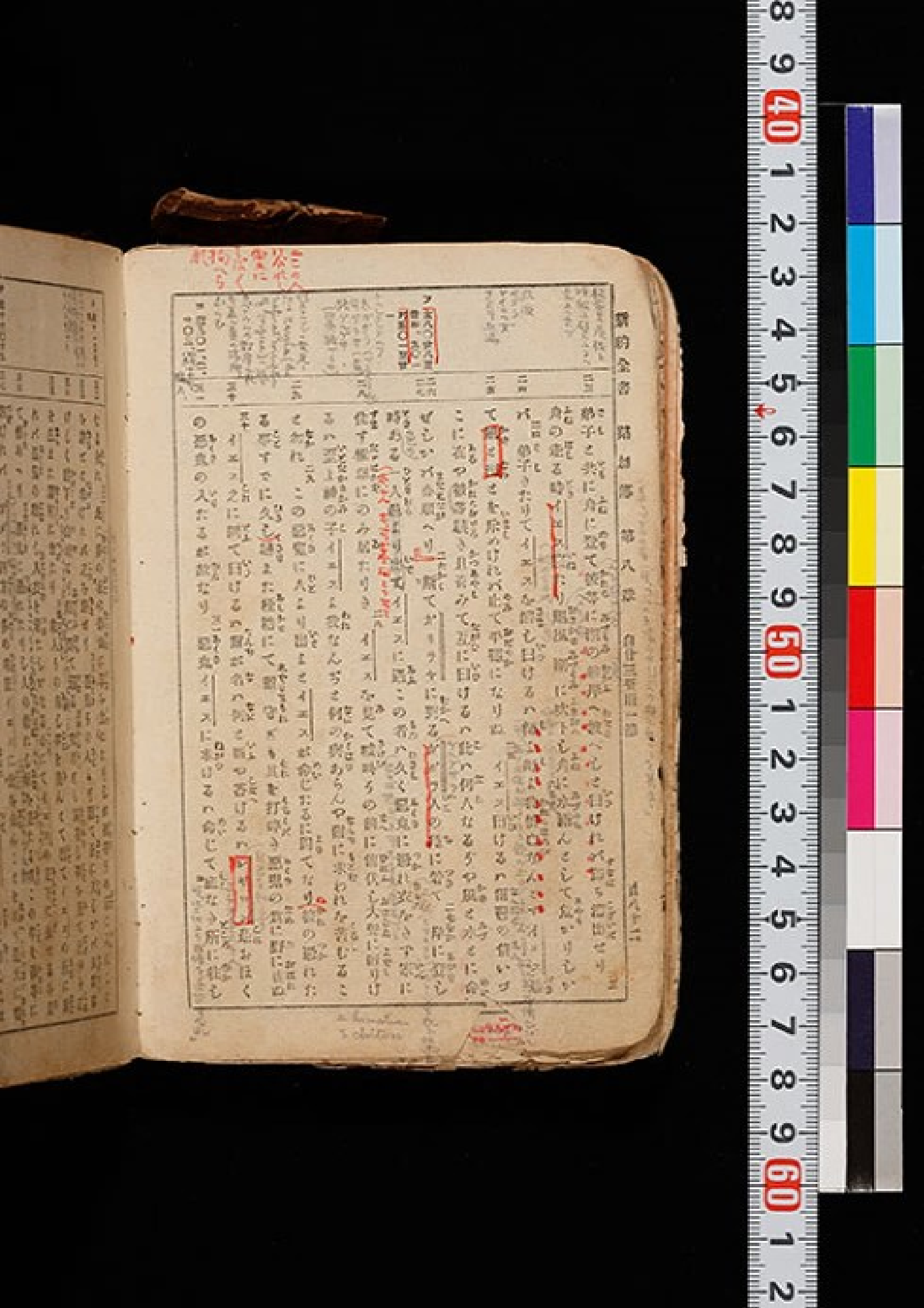


讀の全と 第 八 章 自四十八至八十三節 百八十

八 其數下亦多なり數るよこと少き者へ其數しを少し 是にかてはらに日け
 るハ國の野放るる 國に念せる者ども心の中に預けるハ人ハ益人な
 九 けハ罪をし候下子 イエスに日けるハ其の心なるを欲り安んじしめてせ
 十 給はれ給ふ イエス對答を聞きて其の心なるを益人十二の弟子しげに
 一 對答す 又其の心なるを益人と思たりし者例を立はる 亦し安んじたり即ち
 二 其の心なるを益人と思はる 又ハ其の心なるを益人と思はる 又ハ其の心なるを益人と思はる
 三 又ハ其の心なるを益人と思はる 又ハ其の心なるを益人と思はる 又ハ其の心なるを益人と思はる
 四 又ハ其の心なるを益人と思はる 又ハ其の心なるを益人と思はる 又ハ其の心なるを益人と思はる
 五 又ハ其の心なるを益人と思はる 又ハ其の心なるを益人と思はる 又ハ其の心なるを益人と思はる
 六 又ハ其の心なるを益人と思はる 又ハ其の心なるを益人と思はる 又ハ其の心なるを益人と思はる
 七 又ハ其の心なるを益人と思はる 又ハ其の心なるを益人と思はる 又ハ其の心なるを益人と思はる
 八 又ハ其の心なるを益人と思はる 又ハ其の心なるを益人と思はる 又ハ其の心なるを益人と思はる
 九 又ハ其の心なるを益人と思はる 又ハ其の心なるを益人と思はる 又ハ其の心なるを益人と思はる
 十 又ハ其の心なるを益人と思はる 又ハ其の心なるを益人と思はる 又ハ其の心なるを益人と思はる
 十一 又ハ其の心なるを益人と思はる 又ハ其の心なるを益人と思はる 又ハ其の心なるを益人と思はる
 十二 又ハ其の心なるを益人と思はる 又ハ其の心なるを益人と思はる 又ハ其の心なるを益人と思はる
 十三 又ハ其の心なるを益人と思はる 又ハ其の心なるを益人と思はる 又ハ其の心なるを益人と思はる
 十四 又ハ其の心なるを益人と思はる 又ハ其の心なるを益人と思はる 又ハ其の心なるを益人と思はる
 十五 又ハ其の心なるを益人と思はる 又ハ其の心なるを益人と思はる 又ハ其の心なるを益人と思はる

Handwritten notes in red ink at the top of the page.

Text on the left page of the open book, partially visible.



8 9 **40** 1 2 3 4 5 6 7 8 9 **50** 1 2 3 4 5 6 7 8 9 **60** 1 2

新約全書 卷之八 第三十五章

第二十五節 第二十八節

弟子と共に舟に登りて、彼等に預け、舟へ入らば、心を探られしに、舟の走る時、イエスが舟に離れ、舟に立つる舟が驚んとして走りしを、

イエスが舟を歩みたりて、イエスを恐るし曰けるは、師は我らに何事か、**レ**とい

て曰く、心を探められしに、心を探りて平穩になりぬ、イエスが曰けるは、**レ**は我らに何事

かに在り、我らに預け、且言ひて、互に曰けるは、我ら何人なるや、嵐と水と共に命

びしが、**レ**は我らに預け、**レ**といて、我らに何事か、**レ**といて、舟に在りし

時ある一人、**レ**は我らに預け、**レ**といて、我らに何事か、**レ**といて、舟に在りし

時ある一人、**レ**は我らに預け、**レ**といて、我らに何事か、**レ**といて、舟に在りし

時ある一人、**レ**は我らに預け、**レ**といて、我らに何事か、**レ**といて、舟に在りし

時ある一人、**レ**は我らに預け、**レ**といて、我らに何事か、**レ**といて、舟に在りし

此の舟は、**レ**は我らに預け、**レ**といて、我らに何事か、**レ**といて、舟に在りし

レは我らに預け、**レ**といて、我らに何事か、**レ**といて、舟に在りし

... **レ**は我らに預け、**レ**といて、我らに何事か、**レ**といて、舟に在りし

Matthew

新約全書 聖書卷 第八卷 白銀三十四十二

百八十二

マテオの福音書	三三	むる劍に 此に多の衆の群衆に身を食めたりし時彼等々の衆に入んこと
マテオの福音書	三四	を許せと承ければ之を許せり 恐る者の人より出て衆に入しかば其聲は
マテオの福音書	三五	げしく響下り由波より聞に響て 然るも其有し衆を見てはけり之
マテオの福音書	三六	を益また群衆に響たり 衆人々の有し衆を見んとて出てイエスの所に來
マテオの福音書	三七	れば淫鬼の離れし人衆を驚たしむる心にてイエスの足下に跪せるを覺
マテオの福音書	三八	て懼めへり 恐るに恐れたりし人の數れし衆を見たる者この衆を彼等に
マテオの福音書	三九	告げれば かく四方の多の衆はイエスに此を來んことを來り是人に懼
マテオの福音書	四〇	しお故なりイエス衆に交て曰の 衆の即たる人イエスと共に來んこと
マテオの福音書	四一	を承けるに イエスを來しめて 衆にかへり衆の聲に行し大なる衆を人
マテオの福音書	四二	に當と曰ければ衆に去てイエスの已に行たまひも大なる衆を群衆に傳
マテオの福音書	四三	たり ○ イエス起たる時衆人みな仰望て之を喜び稱ふ言やイロと云る
マテオの福音書	四四	人あり此へ會堂の空なり年をばより 衆なる一人の女ありて瀕死なり
マテオの福音書	四五	ければ來イエスの足下に伏て我衆に來り給んことを來りイエスの往さ



8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2

聖約全書 路加部 第九章 自五十四至六十四節 百八十五
 一 イエスが食事を備へて、大の手足をとり、洗濯と叫びけり。其時、
 へりて顔も洗たり。イエスが命じて食をとりし。其時、洗濯の儀、イエスの
 行し、ことを人に告ぐるな。成め給へり。

二 イエスが食事を備へて、大の手足をとり、洗濯と叫びけり。其時、
 へりて顔も洗たり。イエスが命じて食をとりし。其時、洗濯の儀、イエスの
 行し、ことを人に告ぐるな。成め給へり。

三 イエスが食事を備へて、大の手足をとり、洗濯と叫びけり。其時、
 へりて顔も洗たり。イエスが命じて食をとりし。其時、洗濯の儀、イエスの
 行し、ことを人に告ぐるな。成め給へり。

四 イエスが食事を備へて、大の手足をとり、洗濯と叫びけり。其時、
 へりて顔も洗たり。イエスが命じて食をとりし。其時、洗濯の儀、イエスの
 行し、ことを人に告ぐるな。成め給へり。

五 イエスが食事を備へて、大の手足をとり、洗濯と叫びけり。其時、
 へりて顔も洗たり。イエスが命じて食をとりし。其時、洗濯の儀、イエスの
 行し、ことを人に告ぐるな。成め給へり。

六 イエスが食事を備へて、大の手足をとり、洗濯と叫びけり。其時、
 へりて顔も洗たり。イエスが命じて食をとりし。其時、洗濯の儀、イエスの
 行し、ことを人に告ぐるな。成め給へり。

七 イエスが食事を備へて、大の手足をとり、洗濯と叫びけり。其時、
 へりて顔も洗たり。イエスが命じて食をとりし。其時、洗濯の儀、イエスの
 行し、ことを人に告ぐるな。成め給へり。

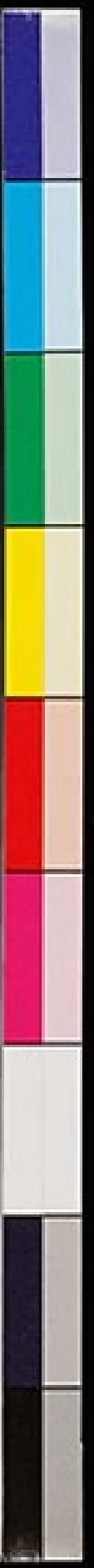
八 イエスが食事を備へて、大の手足をとり、洗濯と叫びけり。其時、
 へりて顔も洗たり。イエスが命じて食をとりし。其時、洗濯の儀、イエスの
 行し、ことを人に告ぐるな。成め給へり。

九 イエスが食事を備へて、大の手足をとり、洗濯と叫びけり。其時、
 へりて顔も洗たり。イエスが命じて食をとりし。其時、洗濯の儀、イエスの
 行し、ことを人に告ぐるな。成め給へり。

十 イエスが食事を備へて、大の手足をとり、洗濯と叫びけり。其時、
 へりて顔も洗たり。イエスが命じて食をとりし。其時、洗濯の儀、イエスの
 行し、ことを人に告ぐるな。成め給へり。

聖約全書 路加部 第九章 自五十四至六十四節 百八十五
 一 イエスが食事を備へて、大の手足をとり、洗濯と叫びけり。其時、
 へりて顔も洗たり。イエスが命じて食をとりし。其時、洗濯の儀、イエスの
 行し、ことを人に告ぐるな。成め給へり。

8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2

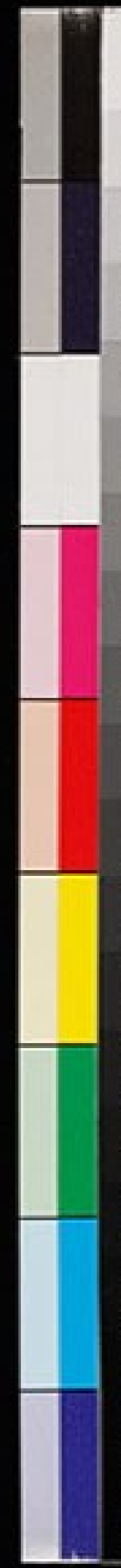


量的を量 路加修 第九章 百八十六

十一 イエスが云るは、此の事なるに、路加修 九章 十節
 十二 の國の首を認むつ證を求る者な、路加修 九章 十一節
 十三 てイエスに曰けるは、此の野なれば、路加修 九章 十二節
 十四 り金を賣る事な、路加修 九章 十三節
 十五 の我財た、路加修 九章 十四節
 十六 此に思ひ辨むは、路加修 九章 十五節
 十七 るは、路加修 九章 十六節
 十八 せじめたり、路加修 九章 十七節
 十九 子にきて、路加修 九章 十八節
 二十 曰て、路加修 九章 十九節
 二十一 曰て、路加修 九章 二十節

十一 イエスが云るは、此の事なるに、路加修 九章 十節
 十二 の國の首を認むつ證を求る者な、路加修 九章 十一節
 十三 てイエスに曰けるは、此の野なれば、路加修 九章 十二節
 十四 り金を賣る事な、路加修 九章 十三節
 十五 の我財た、路加修 九章 十四節
 十六 此に思ひ辨むは、路加修 九章 十五節
 十七 るは、路加修 九章 十六節
 十八 せじめたり、路加修 九章 十七節
 十九 子にきて、路加修 九章 十八節
 二十 曰て、路加修 九章 十九節
 二十一 曰て、路加修 九章 二十節

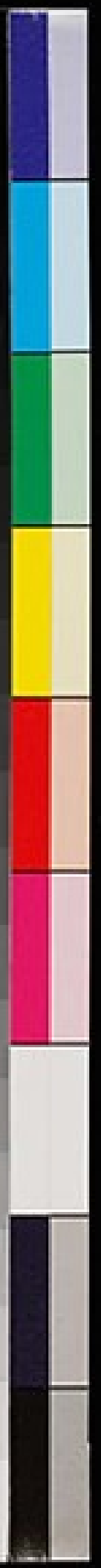
十一 イエスが云るは、此の事なるに、路加修 九章 十節
 十二 の國の首を認むつ證を求る者な、路加修 九章 十一節
 十三 てイエスに曰けるは、此の野なれば、路加修 九章 十二節
 十四 り金を賣る事な、路加修 九章 十三節
 十五 の我財た、路加修 九章 十四節
 十六 此に思ひ辨むは、路加修 九章 十五節
 十七 るは、路加修 九章 十六節
 十八 せじめたり、路加修 九章 十七節
 十九 子にきて、路加修 九章 十八節
 二十 曰て、路加修 九章 十九節
 二十一 曰て、路加修 九章 二十節



三三 又曰ける人の言ふに、
 三二 又曰ける人の言ふに、
 三一 又曰ける人の言ふに、
 三〇 又曰ける人の言ふに、
 二九 又曰ける人の言ふに、
 二八 又曰ける人の言ふに、
 二七 又曰ける人の言ふに、
 二六 又曰ける人の言ふに、
 二五 又曰ける人の言ふに、
 二四 又曰ける人の言ふに、
 二三 又曰ける人の言ふに、
 二二 又曰ける人の言ふに、
 二一 又曰ける人の言ふに、
 二〇 又曰ける人の言ふに、
 一九 又曰ける人の言ふに、
 一八 又曰ける人の言ふに、
 一七 又曰ける人の言ふに、
 一六 又曰ける人の言ふに、
 一五 又曰ける人の言ふに、
 一四 又曰ける人の言ふに、
 一三 又曰ける人の言ふに、
 一二 又曰ける人の言ふに、
 一一 又曰ける人の言ふに、
 一〇 又曰ける人の言ふに、
 〇九 又曰ける人の言ふに、
 〇八 又曰ける人の言ふに、
 〇七 又曰ける人の言ふに、
 〇六 又曰ける人の言ふに、
 〇五 又曰ける人の言ふに、
 〇四 又曰ける人の言ふに、
 〇三 又曰ける人の言ふに、
 〇二 又曰ける人の言ふに、
 〇一 又曰ける人の言ふに、

Henry and sleep to...

8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2



と御こと時ハッロイニスに曰けるハ御よ此に居ハ替われらに三の座を居
 せ給く一ノ御のため一ノモー人のため一ノモー人の爲にばん其御よ
 こゝろを知サリも也 かく判るとき當きたりて替等を取ハリ其御に入して
 き弟子たち御の 聖書より出て曰けるハ 我御子なりとに 御の
 御たれば悦イニス一人を見たり弟子たち口を結て見たりも事な當時ハ御
 にも當さりき ○ 我御子なりとに 御の御多の人々イニスを認ふ 其中
 の或一人ハばりて曰けるハ御よ斯くハ我子を容納たよへ此ハ我御子な
 るに 我御の爲に居れてハ我御とけん治をふき御願られて御み願るう
 と其に御し 我これを世出す事を御の弟子に求むハ御さりき イニス
 答て曰けるハ 我御子なりとに 御の御多の中に御御を認て御列の
 いハ 御が子を此に御來れ 來ハ我御れを御説て御聖のイニス認たる
 我を居て我子を御し父に子へたり 衆人みな御の夫なる御を認きイニス
 の行し事を認める時に イニス弟子に曰けるハ 此言を御御耳に歌のよ夫

御の御多の人々イニスを認ふ
 其中の或一人ハばりて曰けるハ
 我御の爲に居れてハ我御とけん
 治をふき御願られて御み願るう
 と其に御し 我これを世出す事を
 御の弟子に求むハ御さりき
 イニス答て曰けるハ
 我御子なりとに 御の御多の中
 に御御を認て御列のいハ
 御が子を此に御來れ 來ハ我御
 れを御説て御聖のイニス認たる
 我を居て我子を御し父に子へた
 り 衆人みな御の夫なる御を認
 きイニスの行し事を認める時に
 イニス弟子に曰けるハ

御の御多の人々イニスを認ふ
 其中の或一人ハばりて曰けるハ
 我御の爲に居れてハ我御とけん
 治をふき御願られて御み願るう
 と其に御し 我これを世出す事を
 御の弟子に求むハ御さりき
 イニス答て曰けるハ
 我御子なりとに 御の御多の中
 に御御を認て御列のいハ
 御が子を此に御來れ 來ハ我御
 れを御説て御聖のイニス認たる
 我を居て我子を御し父に子へた
 り 衆人みな御の夫なる御を認
 きイニスの行し事を認める時に
 イニス弟子に曰けるハ

8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2

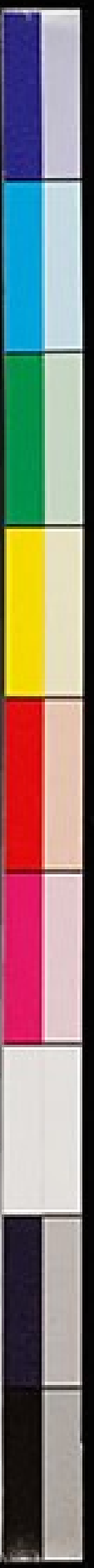
要約全書 目加部 第九卷 百八十九

一	二	三	四	五	六	七	八	九	十
イ ヨハネの御 見聞	ロ ヨハネの御 見聞	ハ ヨハネの御 見聞	ニ ヨハネの御 見聞	ヘ ヨハネの御 見聞	ト ヨハネの御 見聞	チ ヨハネの御 見聞	リ ヨハネの御 見聞	レ ヨハネの御 見聞	ロ ヨハネの御 見聞
ヨハネの御見聞 ヨハネの御見聞 ヨハネの御見聞 ヨハネの御見聞 ヨハネの御見聞 ヨハネの御見聞 ヨハネの御見聞 ヨハネの御見聞 ヨハネの御見聞 ヨハネの御見聞	ヨハネの御見聞 ヨハネの御見聞 ヨハネの御見聞 ヨハネの御見聞 ヨハネの御見聞 ヨハネの御見聞 ヨハネの御見聞 ヨハネの御見聞 ヨハネの御見聞 ヨハネの御見聞	ヨハネの御見聞 ヨハネの御見聞 ヨハネの御見聞 ヨハネの御見聞 ヨハネの御見聞 ヨハネの御見聞 ヨハネの御見聞 ヨハネの御見聞 ヨハネの御見聞 ヨハネの御見聞	ヨハネの御見聞 ヨハネの御見聞 ヨハネの御見聞 ヨハネの御見聞 ヨハネの御見聞 ヨハネの御見聞 ヨハネの御見聞 ヨハネの御見聞 ヨハネの御見聞 ヨハネの御見聞	ヨハネの御見聞 ヨハネの御見聞 ヨハネの御見聞 ヨハネの御見聞 ヨハネの御見聞 ヨハネの御見聞 ヨハネの御見聞 ヨハネの御見聞 ヨハネの御見聞 ヨハネの御見聞	ヨハネの御見聞 ヨハネの御見聞 ヨハネの御見聞 ヨハネの御見聞 ヨハネの御見聞 ヨハネの御見聞 ヨハネの御見聞 ヨハネの御見聞 ヨハネの御見聞 ヨハネの御見聞	ヨハネの御見聞 ヨハネの御見聞 ヨハネの御見聞 ヨハネの御見聞 ヨハネの御見聞 ヨハネの御見聞 ヨハネの御見聞 ヨハネの御見聞 ヨハネの御見聞 ヨハネの御見聞	ヨハネの御見聞 ヨハネの御見聞 ヨハネの御見聞 ヨハネの御見聞 ヨハネの御見聞 ヨハネの御見聞 ヨハネの御見聞 ヨハネの御見聞 ヨハネの御見聞 ヨハネの御見聞	ヨハネの御見聞 ヨハネの御見聞 ヨハネの御見聞 ヨハネの御見聞 ヨハネの御見聞 ヨハネの御見聞 ヨハネの御見聞 ヨハネの御見聞 ヨハネの御見聞 ヨハネの御見聞	ヨハネの御見聞 ヨハネの御見聞 ヨハネの御見聞 ヨハネの御見聞 ヨハネの御見聞 ヨハネの御見聞 ヨハネの御見聞 ヨハネの御見聞 ヨハネの御見聞 ヨハネの御見聞

八の子ハハの手ニ被されん 彼等この言を信せりし時なるやうに
 されば等しまた信て此事を証せりき ○ 弟子等のうち五にヨハネハ人ならん
 との等論ありけれバ イエス其心の念を知て ○ なり信にたてよ 彼
 等に曰けるハ 彼名の爲に此孩子を懐る者ハ 即ち我を懐るなり 我を懐る者
 ハ 我を懐じよ者な懐るなり 凡て信ぜざるは 最も小者ナシ大なるハ
 引きて曰けるハ 何と聖の名に托て我を信出せる者を見たりしや 彼等と我
 には是なる故にこれを懐たり イエス曰けるハ 懐ることあり 終に懐れざ
 る者ハ 終に懐るなり ○ 彼等等々先に出しければ 彼等ゆきて イエスに懐
 んが 爲マシヤ人の船に入むに 船人等のエウサンムに内行さよなるが
 故に イエスを懐せりき 弟子のヤコブヨハネ此事を見て曰けるハ 主ト我
 等ハ 此の御心知れん 大より次を言ふし 御心知れん 御心知れん 御心知れん
 みて之を言ひ曰けるハ 御心知れん 御心知れん 御心知れん 御心知れん 御心知れん

ヨハネの御見聞

8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2



人の御前を去りて其の親を尋ねりて曰く此の御心は誰の御心か
 といて或人イエスに曰けるハ主ノ御心に行なふよし我々
 に曰けるハ主ハ天の御心なり然るも人の手へある所は
 人の一人に曰けるハ我に從ひて曰ひけるハ主よ變りて
 我に對する事な
 といて或人曰けるハ我に對する事な
 といて或人曰けるハ我に對する事な
 といて或人曰けるハ我に對する事な

Handwritten marginal notes in Latin script, including 'Sicut dicitur' and 'in spiritu sancto'.

Handwritten marginal notes in Latin script on the left side of the page.

8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2

白七十九番

百六十一

118	119	120	121	122	123	124	125	126	127	128	129	130
イ	ロ	ハ	ニ	ホ	ヘ	ト	チ	リ	ヌ	フ	ク	ケ
...

Handwritten notes in red ink at the top of the page.

Text on the adjacent page, partially visible on the right edge.

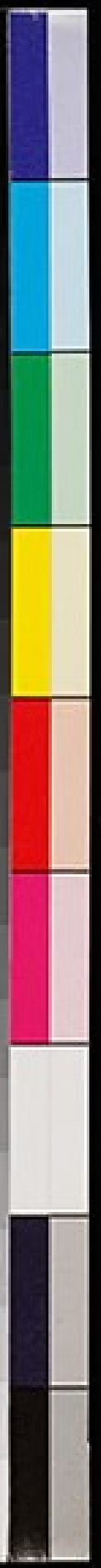
上巻に於て... 下巻に於て...

* 百十の十五	<p>みづからを説き及ぶにせんとてイエスに曰けるの衆の^{百十の十五}ハ、^{百十の十五}ハ、^{百十の十五}ハ、^{百十の十五}ハ、</p>
* 百十の十	<p>何れかて曰けるハ、ある人ハ、^{百十の十}ハ、^{百十の十}ハ、^{百十の十}ハ、</p>
* 百十の五	<p>その人の友を致して之を行遊させ給はせり。斯る時に、^{百十の五}ハ、^{百十の五}ハ、</p>
* 百十	<p>前より下しに之を見逃し給はり。又、^{百十}ハ、^{百十}ハ、^{百十}ハ、</p>

... (Additional text in the main block) ...



8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2



第百九十四節 第四十條 第十一條 自四十二至十二段八節

EION EION	<p>二 遠かるが彼にゆいて我を助むめよ イエス答て曰ひるがテラスエトラス <small>Abraham's</small> 多項により原田は心のゆかり 故に始て可みおじとぬ <small>Abraham's</small> 故に始て可みおじとぬ <small>Abraham's</small> 故に始て可みおじとぬ</p>
EION EION	<p>一 遠かるが彼にゆいて我を助むめよ イエス答て曰ひるが <small>Abraham's</small> 多項により原田は心のゆかり 故に始て可みおじとぬ <small>Abraham's</small> 故に始て可みおじとぬ <small>Abraham's</small> 故に始て可みおじとぬ</p>
EION EION	<p>一 遠かるが彼にゆいて我を助むめよ イエス答て曰ひるが <small>Abraham's</small> 多項により原田は心のゆかり 故に始て可みおじとぬ <small>Abraham's</small> 故に始て可みおじとぬ <small>Abraham's</small> 故に始て可みおじとぬ</p>

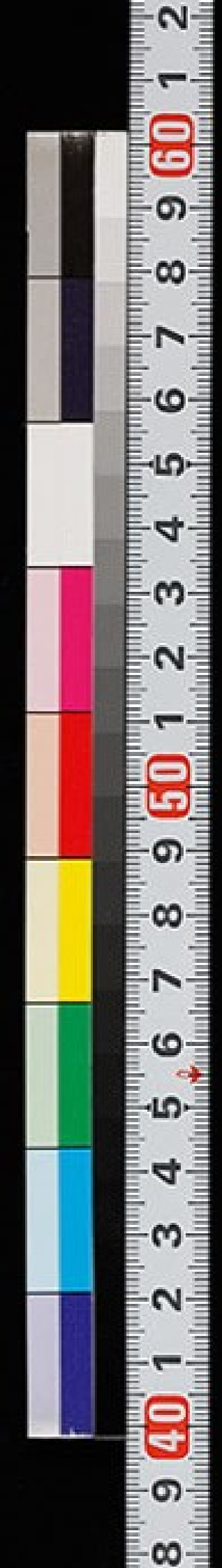
Handwritten notes on the left page, including the word 'EION' and other illegible text.

Handwritten notes at the top and bottom of the right page, including '第百九十四節' and other illegible text.

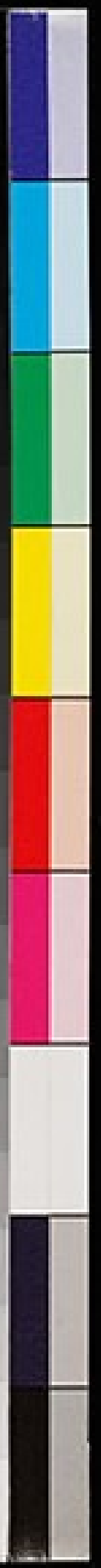
アノ見なもん

番号	原文	和訳
1	我なんぢらに告んば、世は終つて、天は燃ゆ、地は燃ゆ、樹木も燃ゆ、海も燃ゆ、	我なんぢらに告んば、世は終つて、天は燃ゆ、地は燃ゆ、樹木も燃ゆ、海も燃ゆ、
2	雲も燃ゆ、山も燃ゆ、	雲も燃ゆ、山も燃ゆ、
3	地も燃ゆ、	地も燃ゆ、
4	人も燃ゆ、	人も燃ゆ、
5	動物も燃ゆ、	動物も燃ゆ、
6	植物も燃ゆ、	植物も燃ゆ、
7	鳥も燃ゆ、	鳥も燃ゆ、
8	虫も燃ゆ、	虫も燃ゆ、
9	魚も燃ゆ、	魚も燃ゆ、
10	蛇も燃ゆ、	蛇も燃ゆ、
11	獣も燃ゆ、	獣も燃ゆ、
12	牛も燃ゆ、	牛も燃ゆ、
13	馬も燃ゆ、	馬も燃ゆ、
14	羊も燃ゆ、	羊も燃ゆ、
15	山羊も燃ゆ、	山羊も燃ゆ、
16	豚も燃ゆ、	豚も燃ゆ、
17	鳥獣も燃ゆ、	鳥獣も燃ゆ、
18	野鳥も燃ゆ、	野鳥も燃ゆ、
19	野獣も燃ゆ、	野獣も燃ゆ、
20	野鳥も燃ゆ、	野鳥も燃ゆ、
21	野獣も燃ゆ、	野獣も燃ゆ、
22	野鳥も燃ゆ、	野鳥も燃ゆ、
23	野獣も燃ゆ、	野獣も燃ゆ、
24	野鳥も燃ゆ、	野鳥も燃ゆ、
25	野獣も燃ゆ、	野獣も燃ゆ、

新約全書 路加徳 第十一章 百九十三節 百六十五



8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2



The drawing of the map is copied by the
 best artist of the place, with 7 beds
 of the same kind, and the
 appearance of the

第百一十卷 第十一卷 第百一十卷

百六十六

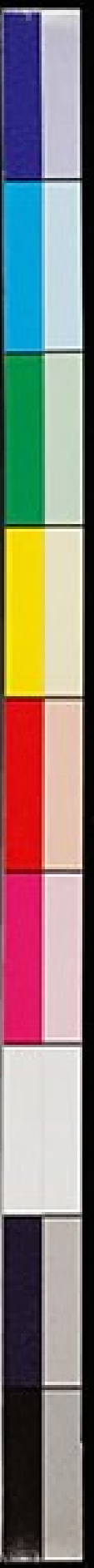
1	BRONCO	1	巴那
2	BRONCO	2	巴那
3	BRONCO	3	巴那
4	BRONCO	4	巴那
5	BRONCO	5	巴那
6	BRONCO	6	巴那
7	BRONCO	7	巴那
8	BRONCO	8	巴那
9	BRONCO	9	巴那
10	BRONCO	10	巴那
11	BRONCO	11	巴那
12	BRONCO	12	巴那
13	BRONCO	13	巴那
14	BRONCO	14	巴那
15	BRONCO	15	巴那
16	BRONCO	16	巴那
17	BRONCO	17	巴那
18	BRONCO	18	巴那
19	BRONCO	19	巴那
20	BRONCO	20	巴那

1. 巴那 2. 巴那 3. 巴那 4. 巴那 5. 巴那 6. 巴那 7. 巴那 8. 巴那 9. 巴那 10. 巴那 11. 巴那 12. 巴那 13. 巴那 14. 巴那 15. 巴那 16. 巴那 17. 巴那 18. 巴那 19. 巴那 20. 巴那

今の世に於ては、
 人々の心を
 引くもの多し
 故に其の
 心を引くもの
 多くを以て
 世に於ては
 人心を引く
 もの多し

百六十六

8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2



第廿二卷
自十四卷至五節

第廿二卷
自十四卷至五節

十八 兄姉に禮を以て命たまへ イエス曰けるハ
 十九 心を領めし夫人の命ハ罪惡の餘なるにハ
 二十 是ほどの許多の貨物を有たれば
 二十一 此の如なり イエス曰けるハ
 二十二 命の爲に何を食ひ身體の爲に何を穿ん
 二十三 命の爲に何を食ひ身體の爲に何を穿ん
 二十四 命の爲に何を食ひ身體の爲に何を穿ん

第廿二卷 自十四卷至五節

8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2

新約全書 路加 第十三章 自五十五至六十三節

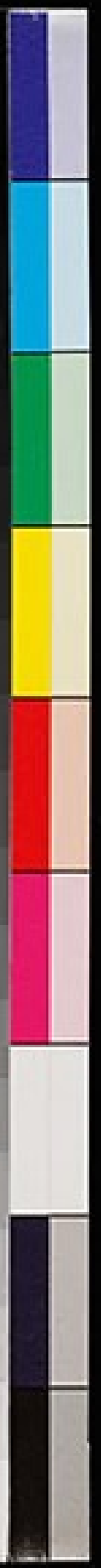
11411

1	レ	レ
2	レ	レ
3	レ	レ
4	レ	レ
5	レ	レ
6	レ	レ
7	レ	レ
8	レ	レ
9	レ	レ
10	レ	レ
11	レ	レ
12	レ	レ
13	レ	レ
14	レ	レ
15	レ	レ
16	レ	レ
17	レ	レ
18	レ	レ
19	レ	レ
20	レ	レ
21	レ	レ
22	レ	レ
23	レ	レ
24	レ	レ
25	レ	レ
26	レ	レ
27	レ	レ
28	レ	レ
29	レ	レ
30	レ	レ
31	レ	レ
32	レ	レ
33	レ	レ
34	レ	レ
35	レ	レ
36	レ	レ
37	レ	レ
38	レ	レ
39	レ	レ
40	レ	レ
41	レ	レ
42	レ	レ
43	レ	レ
44	レ	レ
45	レ	レ
46	レ	レ
47	レ	レ
48	レ	レ
49	レ	レ
50	レ	レ
51	レ	レ
52	レ	レ
53	レ	レ
54	レ	レ
55	レ	レ
56	レ	レ
57	レ	レ
58	レ	レ
59	レ	レ
60	レ	レ
61	レ	レ
62	レ	レ
63	レ	レ

Handwritten marginal notes in Japanese, including the title '新約全書 路加 第十三章' and other commentary.

Handwritten notes at the top of the page, possibly a title or introductory text.

8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2



聖の全書 聖書 第十三卷 自三十三卷

1125

二	イニツク INICUK	二	同じ事をイニスに告る者あり イニス答て彼等に曰けるハ爾等このイニツク人の衆の如く留されし故に凡のイニツク人より益りて其ある者と思ふや 我なんぢらに告ん然す爾等が改めずバ若しなむじくむるべし
三	イニツク INICUK	三	イニツクの答に曰て曰く我なんぢらに告ん然す爾等が改めずバ若しなむじくむるべし
四	イニツク INICUK	四	同じ事を告る者と思ふや 我なんぢらに告ん然す爾等が改めずバ若しなむじくむるべし
五	イニツク INICUK	五	同じ事を告る者と思ふや 我なんぢらに告ん然す爾等が改めずバ若しなむじくむるべし
六	イニツク INICUK	六	同じ事を告る者と思ふや 我なんぢらに告ん然す爾等が改めずバ若しなむじくむるべし
七	イニツク INICUK	七	同じ事を告る者と思ふや 我なんぢらに告ん然す爾等が改めずバ若しなむじくむるべし
八	イニツク INICUK	八	同じ事を告る者と思ふや 我なんぢらに告ん然す爾等が改めずバ若しなむじくむるべし
九	イニツク INICUK	九	同じ事を告る者と思ふや 我なんぢらに告ん然す爾等が改めずバ若しなむじくむるべし
十	イニツク INICUK	十	同じ事を告る者と思ふや 我なんぢらに告ん然す爾等が改めずバ若しなむじくむるべし
十一	イニツク INICUK	十一	同じ事を告る者と思ふや 我なんぢらに告ん然す爾等が改めずバ若しなむじくむるべし
十二	イニツク INICUK	十二	同じ事を告る者と思ふや 我なんぢらに告ん然す爾等が改めずバ若しなむじくむるべし
十三	イニツク INICUK	十三	同じ事を告る者と思ふや 我なんぢらに告ん然す爾等が改めずバ若しなむじくむるべし
十四	イニツク INICUK	十四	同じ事を告る者と思ふや 我なんぢらに告ん然す爾等が改めずバ若しなむじくむるべし
十五	イニツク INICUK	十五	同じ事を告る者と思ふや 我なんぢらに告ん然す爾等が改めずバ若しなむじくむるべし

イニツク

Handwritten notes in the left margin, including a list of names and dates.

イニツク 1125

8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2



一	人ハバシヤ ナシト云フ 人ハバシヤ ナシト云フ 人ハバシヤ ナシト云フ	二	人ハバシヤ ナシト云フ 人ハバシヤ ナシト云フ 人ハバシヤ ナシト云フ	三	人ハバシヤ ナシト云フ 人ハバシヤ ナシト云フ 人ハバシヤ ナシト云フ	四	人ハバシヤ ナシト云フ 人ハバシヤ ナシト云フ 人ハバシヤ ナシト云フ	五	人ハバシヤ ナシト云フ 人ハバシヤ ナシト云フ 人ハバシヤ ナシト云フ	六	人ハバシヤ ナシト云フ 人ハバシヤ ナシト云フ 人ハバシヤ ナシト云フ	七	人ハバシヤ ナシト云フ 人ハバシヤ ナシト云フ 人ハバシヤ ナシト云フ	八	人ハバシヤ ナシト云フ 人ハバシヤ ナシト云フ 人ハバシヤ ナシト云フ	九	人ハバシヤ ナシト云フ 人ハバシヤ ナシト云フ 人ハバシヤ ナシト云フ	十	人ハバシヤ ナシト云フ 人ハバシヤ ナシト云フ 人ハバシヤ ナシト云フ	十一	人ハバシヤ ナシト云フ 人ハバシヤ ナシト云フ 人ハバシヤ ナシト云フ	十二	人ハバシヤ ナシト云フ 人ハバシヤ ナシト云フ 人ハバシヤ ナシト云フ	十三	人ハバシヤ ナシト云フ 人ハバシヤ ナシト云フ 人ハバシヤ ナシト云フ	十四	人ハバシヤ ナシト云フ 人ハバシヤ ナシト云フ 人ハバシヤ ナシト云フ	十五	人ハバシヤ ナシト云フ 人ハバシヤ ナシト云フ 人ハバシヤ ナシト云フ	十六	人ハバシヤ ナシト云フ 人ハバシヤ ナシト云フ 人ハバシヤ ナシト云フ	十七	人ハバシヤ ナシト云フ 人ハバシヤ ナシト云フ 人ハバシヤ ナシト云フ	十八	人ハバシヤ ナシト云フ 人ハバシヤ ナシト云フ 人ハバシヤ ナシト云フ	十九	人ハバシヤ ナシト云フ 人ハバシヤ ナシト云フ 人ハバシヤ ナシト云フ	二十	人ハバシヤ ナシト云フ 人ハバシヤ ナシト云フ 人ハバシヤ ナシト云フ
---	--	---	--	---	--	---	--	---	--	---	--	---	--	---	--	---	--	---	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--

二一 知すと曰ん 然る時に我朝へ歸の共に急欲し居また我朝の門に就たりしと出出さんに 法人こたへて我をんちりに吾ん外路より來りしと知す
 二二 知すと曰ん 然る時に我朝へ歸の共に急欲し居また我朝の門に就たりしと出出さんに 法人こたへて我をんちりに吾ん外路より來りしと知す
 二三 知すと曰ん 然る時に我朝へ歸の共に急欲し居また我朝の門に就たりしと出出さんに 法人こたへて我をんちりに吾ん外路より來りしと知す
 二四 知すと曰ん 然る時に我朝へ歸の共に急欲し居また我朝の門に就たりしと出出さんに 法人こたへて我をんちりに吾ん外路より來りしと知す
 二五 知すと曰ん 然る時に我朝へ歸の共に急欲し居また我朝の門に就たりしと出出さんに 法人こたへて我をんちりに吾ん外路より來りしと知す

Vertical marginal note in small characters

8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2 3 4 5 6 7 8 9

一 聖いはん時いたる處へ我を見ざるべし
 二 彼等は言ひて曰く 我を見ざるべし
 三 聖いはん時いたる處へ我を見ざるべし
 四 彼等は言ひて曰く 我を見ざるべし
 五 聖いはん時いたる處へ我を見ざるべし
 六 彼等は言ひて曰く 我を見ざるべし
 七 聖いはん時いたる處へ我を見ざるべし
 八 彼等は言ひて曰く 我を見ざるべし
 九 聖いはん時いたる處へ我を見ざるべし
 十 彼等は言ひて曰く 我を見ざるべし
 十一 聖いはん時いたる處へ我を見ざるべし
 十二 彼等は言ひて曰く 我を見ざるべし

聖いはん時いたる處へ我を見ざるべし

聖いはん時いたる處へ我を見ざるべし

8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2



1. 聖書の
2. 聖書の
3. 聖書の

1	聖書の	聖書の	聖書の
2	聖書の	聖書の	聖書の
3	聖書の	聖書の	聖書の
4	聖書の	聖書の	聖書の
5	聖書の	聖書の	聖書の
6	聖書の	聖書の	聖書の
7	聖書の	聖書の	聖書の
8	聖書の	聖書の	聖書の
9	聖書の	聖書の	聖書の
10	聖書の	聖書の	聖書の
11	聖書の	聖書の	聖書の
12	聖書の	聖書の	聖書の
13	聖書の	聖書の	聖書の
14	聖書の	聖書の	聖書の
15	聖書の	聖書の	聖書の
16	聖書の	聖書の	聖書の
17	聖書の	聖書の	聖書の
18	聖書の	聖書の	聖書の
19	聖書の	聖書の	聖書の
20	聖書の	聖書の	聖書の
21	聖書の	聖書の	聖書の
22	聖書の	聖書の	聖書の
23	聖書の	聖書の	聖書の
24	聖書の	聖書の	聖書の
25	聖書の	聖書の	聖書の
26	聖書の	聖書の	聖書の
27	聖書の	聖書の	聖書の
28	聖書の	聖書の	聖書の
29	聖書の	聖書の	聖書の
30	聖書の	聖書の	聖書の
31	聖書の	聖書の	聖書の
32	聖書の	聖書の	聖書の
33	聖書の	聖書の	聖書の
34	聖書の	聖書の	聖書の
35	聖書の	聖書の	聖書の
36	聖書の	聖書の	聖書の
37	聖書の	聖書の	聖書の
38	聖書の	聖書の	聖書の
39	聖書の	聖書の	聖書の
40	聖書の	聖書の	聖書の

Handwritten text on the left page, partially obscured and difficult to read.

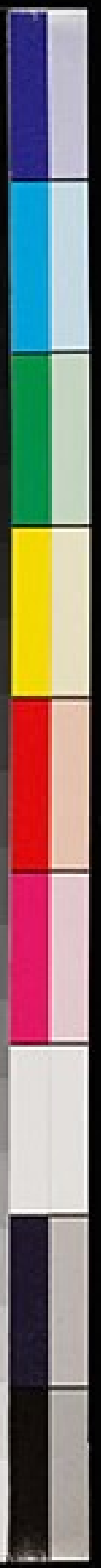
8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2

聖約全書 路加傳 第十五章 白杜四卷十卷三節

二 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百

一 多の人カイエスと曰く、
 二 多の人カイエスと曰く、
 三 多の人カイエスと曰く、
 四 多の人カイエスと曰く、
 五 多の人カイエスと曰く、
 六 多の人カイエスと曰く、
 七 多の人カイエスと曰く、
 八 多の人カイエスと曰く、
 九 多の人カイエスと曰く、
 十 多の人カイエスと曰く、
 十一 多の人カイエスと曰く、
 十二 多の人カイエスと曰く、
 十三 多の人カイエスと曰く、
 十四 多の人カイエスと曰く、
 十五 多の人カイエスと曰く、
 十六 多の人カイエスと曰く、
 十七 多の人カイエスと曰く、
 十八 多の人カイエスと曰く、
 十九 多の人カイエスと曰く、
 二十 多の人カイエスと曰く、
 二十一 多の人カイエスと曰く、
 二十二 多の人カイエスと曰く、
 二十三 多の人カイエスと曰く、
 二十四 多の人カイエスと曰く、
 二十五 多の人カイエスと曰く、
 二十六 多の人カイエスと曰く、
 二十七 多の人カイエスと曰く、
 二十八 多の人カイエスと曰く、
 二十九 多の人カイエスと曰く、
 三十 多の人カイエスと曰く、
 三十一 多の人カイエスと曰く、
 三十二 多の人カイエスと曰く、
 三十三 多の人カイエスと曰く、
 三十四 多の人カイエスと曰く、
 三十五 多の人カイエスと曰く、
 三十六 多の人カイエスと曰く、
 三十七 多の人カイエスと曰く、
 三十八 多の人カイエスと曰く、
 三十九 多の人カイエスと曰く、
 四十 多の人カイエスと曰く、
 四十一 多の人カイエスと曰く、
 四十二 多の人カイエスと曰く、
 四十三 多の人カイエスと曰く、
 四十四 多の人カイエスと曰く、
 四十五 多の人カイエスと曰く、
 四十六 多の人カイエスと曰く、
 四十七 多の人カイエスと曰く、
 四十八 多の人カイエスと曰く、
 四十九 多の人カイエスと曰く、
 五十 多の人カイエスと曰く、
 五十一 多の人カイエスと曰く、
 五十二 多の人カイエスと曰く、
 五十三 多の人カイエスと曰く、
 五十四 多の人カイエスと曰く、
 五十五 多の人カイエスと曰く、
 五十六 多の人カイエスと曰く、
 五十七 多の人カイエスと曰く、
 五十八 多の人カイエスと曰く、
 五十九 多の人カイエスと曰く、
 六十 多の人カイエスと曰く、
 六十一 多の人カイエスと曰く、
 六十二 多の人カイエスと曰く、
 六十三 多の人カイエスと曰く、
 六十四 多の人カイエスと曰く、
 六十五 多の人カイエスと曰く、
 六十六 多の人カイエスと曰く、
 六十七 多の人カイエスと曰く、
 六十八 多の人カイエスと曰く、
 六十九 多の人カイエスと曰く、
 七十 多の人カイエスと曰く、
 七十一 多の人カイエスと曰く、
 七十二 多の人カイエスと曰く、
 七十三 多の人カイエスと曰く、
 七十四 多の人カイエスと曰く、
 七十五 多の人カイエスと曰く、
 七十六 多の人カイエスと曰く、
 七十七 多の人カイエスと曰く、
 七十八 多の人カイエスと曰く、
 七十九 多の人カイエスと曰く、
 八十 多の人カイエスと曰く、
 八十一 多の人カイエスと曰く、
 八十二 多の人カイエスと曰く、
 八十三 多の人カイエスと曰く、
 八十四 多の人カイエスと曰く、
 八十五 多の人カイエスと曰く、
 八十六 多の人カイエスと曰く、
 八十七 多の人カイエスと曰く、
 八十八 多の人カイエスと曰く、
 八十九 多の人カイエスと曰く、
 九十 多の人カイエスと曰く、
 九十一 多の人カイエスと曰く、
 九十二 多の人カイエスと曰く、
 九十三 多の人カイエスと曰く、
 九十四 多の人カイエスと曰く、
 九十五 多の人カイエスと曰く、
 九十六 多の人カイエスと曰く、
 九十七 多の人カイエスと曰く、
 九十八 多の人カイエスと曰く、
 九十九 多の人カイエスと曰く、
 一百 多の人カイエスと曰く、

8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2



敬約全書 第加條 第十五章 自三至十四節

一、敬約全書
 二、敬約全書
 三、敬約全書
 四、敬約全書
 五、敬約全書
 六、敬約全書
 七、敬約全書
 八、敬約全書
 九、敬約全書
 十、敬約全書
 十一、敬約全書
 十二、敬約全書
 十三、敬約全書
 十四、敬約全書
 十五、敬約全書
 十六、敬約全書
 十七、敬約全書
 十八、敬約全書
 十九、敬約全書
 二十、敬約全書

Very interesting very interesting

Handwritten notes on the left page of the notebook.

8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2



男子
女子
...

二六 夫更なる頃を尋たるなり 又いかりて入す是故に其父いまさ敷に
 二七 夫に答て曰けるハ我多事なんぢに事て未だ習のゆに言す餘
 二八 我衣も無じ髪にも血をもちし事なし 然に其の髪を脱したる
 二九 心ひき大す未だ髪之は髪に肥たる頃を脱れり 父いれば曰けるハ
 三〇 髪之肥に我と共に在また我所有の物なんぢの賜なり 其の取 夫て我より
 三一 心ひきて我目たるは故に我例者て脱じハ髪之の事なり 夫れ我より
 三二 伊弉諾の皇子に曰けるハ我富る人に 髪之ありけるは主の
 三三 所者と脱じると主人へ脱へちる 主人は會者を得て曰けるハ髪に脱て我
 三四 きたる事ハ何ぞや今我なんぢを鎌倉者と爲えされハ其會計たる鎌倉と我
 三五 に脱じ 鎌倉者みづから意るハ主人わは鎌倉を奪はば何れを爲ん我鎌倉を
 三六 につたなく鎌倉を奪はば何れを爲ん我鎌倉を奪はば何れを爲ん我鎌倉を
 三七 奪はば何れを爲ん我鎌倉を奪はば何れを爲ん我鎌倉を奪はば何れを爲ん我鎌倉を
 三八 奪はば何れを爲ん我鎌倉を奪はば何れを爲ん我鎌倉を奪はば何れを爲ん我鎌倉を
 三九 奪はば何れを爲ん我鎌倉を奪はば何れを爲ん我鎌倉を奪はば何れを爲ん我鎌倉を
 四〇 奪はば何れを爲ん我鎌倉を奪はば何れを爲ん我鎌倉を奪はば何れを爲ん我鎌倉を

源氏物語 第百二十六章 自廿八至十六卷六節 二百二十二

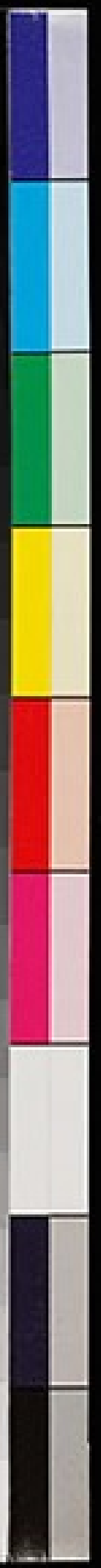
Paraphrase of the apostle's text

イ コ ロ ン テ ノ 二 ノ 一 ノ 一 六	イ コ ロ ン テ ノ 二 ノ 一 ノ 一 六	イ コ ロ ン テ ノ 二 ノ 一 ノ 一 六	イ コ ロ ン テ ノ 二 ノ 一 ノ 一 六	イ コ ロ ン テ ノ 二 ノ 一 ノ 一 六	イ コ ロ ン テ ノ 二 ノ 一 ノ 一 六	イ コ ロ ン テ ノ 二 ノ 一 ノ 一 六	イ コ ロ ン テ ノ 二 ノ 一 ノ 一 六	イ コ ロ ン テ ノ 二 ノ 一 ノ 一 六	イ コ ロ ン テ ノ 二 ノ 一 ノ 一 六	イ コ ロ ン テ ノ 二 ノ 一 ノ 一 六
<p>愛語を以ていふが通して五十に及ばず 又一人に口けるハ其の良徳なりある のを得ていふ今其徳なり其に口けるハ其の愛を以て八十と云ふ 其人 の所為の巧なるに因て此不義なる相會者をやたり又ハ其の子を以て 其に其父の子にたりし巧なり 我なんぢらに當ん ぢぬ及んば其の父の如く人知れぬ 其徳を以て其の父の如く人知れぬ に思ふ者ハ大徳に思ふ小徳に思ふを以て其の父の如く人知れぬ なんぢら不義の罪に思ひ及んば 其の罪の如く人知んや 爾等しむ の所有に不義ならば 其の所有の罪を以て一人の僕ハ二人の 主人に事するハ其の徳を以て其の父の如く人知れぬ 其徳を以て 其なんぢら其の罪に思ふるに思ふ 其の罪を以て一人の僕ハ二人の イコスを以てたり イコス徳等に口けるハ其の罪の如く人知んや 其の する者なり然ても其の罪の心を知り其人の徳の如く人知れぬ 其徳を以て 其なり 其法を以て其の罪の如く人知れぬ 其の罪を以て一人の僕ハ二人の</p>										

聖約公書 加加郎 第十六章 百七至百十六節



8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2



聖約全書 第十六章 自十七節至廿七節

18	ハカドク HAKODOKU	かく之に入んと為たり
19	ニ ニ	其罪を悔して悔ひ給ふべし
20	ニ ニ	○ 愛に
21	ニ ニ	あり給ふべし
22	ニ ニ	ある者あり
23	ニ ニ	死たれば
24	ニ ニ	死の使者たち
25	ニ ニ	其罪を悔して
26	ニ ニ	悔ふべし
27	ニ ニ	悔ふべし

Handwritten notes in Latin script at the top of the page.



一 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百

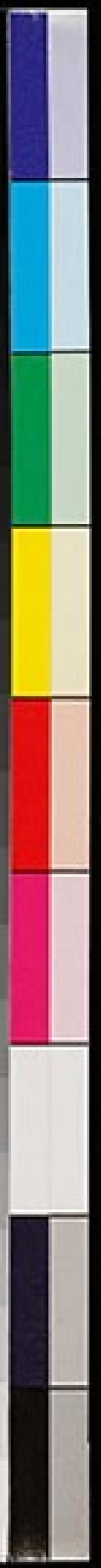
一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百

Handwritten marginal notes in Japanese, including the name 'ヨハネ' (John) and other commentary.

Text from the adjacent page on the right, partially visible.

8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2

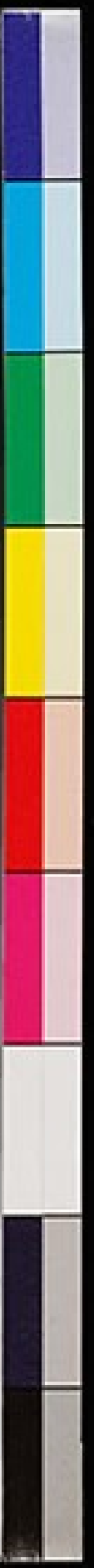


聖王の御方

1. 聖王の御方
 2. 聖王の御方
 3. 聖王の御方
 4. 聖王の御方
 5. 聖王の御方
 6. 聖王の御方
 7. 聖王の御方
 8. 聖王の御方
 9. 聖王の御方
 10. 聖王の御方
 11. 聖王の御方
 12. 聖王の御方
 13. 聖王の御方
 14. 聖王の御方
 15. 聖王の御方
 16. 聖王の御方
 17. 聖王の御方
 18. 聖王の御方
 19. 聖王の御方
 20. 聖王の御方
 21. 聖王の御方
 22. 聖王の御方
 23. 聖王の御方
 24. 聖王の御方
 25. 聖王の御方
 26. 聖王の御方
 27. 聖王の御方
 28. 聖王の御方
 29. 聖王の御方
 30. 聖王の御方
 31. 聖王の御方
 32. 聖王の御方
 33. 聖王の御方
 34. 聖王の御方
 35. 聖王の御方
 36. 聖王の御方
 37. 聖王の御方
 38. 聖王の御方
 39. 聖王の御方
 40. 聖王の御方
 41. 聖王の御方
 42. 聖王の御方
 43. 聖王の御方
 44. 聖王の御方
 45. 聖王の御方
 46. 聖王の御方
 47. 聖王の御方
 48. 聖王の御方
 49. 聖王の御方
 50. 聖王の御方
 51. 聖王の御方
 52. 聖王の御方
 53. 聖王の御方
 54. 聖王の御方
 55. 聖王の御方
 56. 聖王の御方
 57. 聖王の御方
 58. 聖王の御方
 59. 聖王の御方
 60. 聖王の御方
 61. 聖王の御方
 62. 聖王の御方
 63. 聖王の御方
 64. 聖王の御方
 65. 聖王の御方
 66. 聖王の御方
 67. 聖王の御方
 68. 聖王の御方
 69. 聖王の御方
 70. 聖王の御方
 71. 聖王の御方
 72. 聖王の御方
 73. 聖王の御方
 74. 聖王の御方
 75. 聖王の御方
 76. 聖王の御方
 77. 聖王の御方
 78. 聖王の御方
 79. 聖王の御方
 80. 聖王の御方
 81. 聖王の御方
 82. 聖王の御方
 83. 聖王の御方
 84. 聖王の御方
 85. 聖王の御方
 86. 聖王の御方
 87. 聖王の御方
 88. 聖王の御方
 89. 聖王の御方
 90. 聖王の御方
 91. 聖王の御方
 92. 聖王の御方
 93. 聖王の御方
 94. 聖王の御方
 95. 聖王の御方
 96. 聖王の御方
 97. 聖王の御方
 98. 聖王の御方
 99. 聖王の御方
 100. 聖王の御方



8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2



百八十八 二百十八

（一）
（二）
（三）
（四）
（五）
（六）
（七）
（八）
（九）
（十）

一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二
MARKOIN MARKOIN MARKOIN MARKOIN MARKOIN MARKOIN MARKOIN MARKOIN MARKOIN MARKOIN MARKOIN MARKOIN	MARKOIN MARKOIN MARKOIN MARKOIN MARKOIN MARKOIN MARKOIN MARKOIN MARKOIN MARKOIN MARKOIN MARKOIN	MARKOIN MARKOIN MARKOIN MARKOIN MARKOIN MARKOIN MARKOIN MARKOIN MARKOIN MARKOIN MARKOIN MARKOIN	MARKOIN MARKOIN MARKOIN MARKOIN MARKOIN MARKOIN MARKOIN MARKOIN MARKOIN MARKOIN MARKOIN MARKOIN	MARKOIN MARKOIN MARKOIN MARKOIN MARKOIN MARKOIN MARKOIN MARKOIN MARKOIN MARKOIN MARKOIN MARKOIN	MARKOIN MARKOIN MARKOIN MARKOIN MARKOIN MARKOIN MARKOIN MARKOIN MARKOIN MARKOIN MARKOIN MARKOIN	MARKOIN MARKOIN MARKOIN MARKOIN MARKOIN MARKOIN MARKOIN MARKOIN MARKOIN MARKOIN MARKOIN MARKOIN	MARKOIN MARKOIN MARKOIN MARKOIN MARKOIN MARKOIN MARKOIN MARKOIN MARKOIN MARKOIN MARKOIN MARKOIN	MARKOIN MARKOIN MARKOIN MARKOIN MARKOIN MARKOIN MARKOIN MARKOIN MARKOIN MARKOIN MARKOIN MARKOIN	MARKOIN MARKOIN MARKOIN MARKOIN MARKOIN MARKOIN MARKOIN MARKOIN MARKOIN MARKOIN MARKOIN MARKOIN	MARKOIN MARKOIN MARKOIN MARKOIN MARKOIN MARKOIN MARKOIN MARKOIN MARKOIN MARKOIN MARKOIN MARKOIN	MARKOIN MARKOIN MARKOIN MARKOIN MARKOIN MARKOIN MARKOIN MARKOIN MARKOIN MARKOIN MARKOIN MARKOIN

一、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、
 九、
 十、
 十一、
 十二、

一、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、
 九、
 十、
 十一、
 十二、



見ず其國を捨てて歸る人なるを憐れみ給へり。曰く、我なんぢらに當ん此人
 の故人よりハ我と爲れて歸に歸たり夫すべて自己を高く擡げ給へり。自己
 を卑する者ハ高らるべし。イエスに接せられんがため人々ハ我を羨み來りし
 に弟子たち見て之を賞たり。イエス惡言を唾ひ弟子に曰けるハ、惡言を我
 に浴せし彼等を擡ぐる勿れ。己の歸に歸るハ惡の友と爲るなり。歸に歸るに
 人ハ其親族の歸に歸の風を承るべし。之に人ハ其親族の友と爲る也。○
 夫て曰けるハ、爾等ハ我を擡ぐ。我を擡ぐために我になんぞ行へんや。イエス答に曰
 けるハ、何れが我を擡ぐと爾等ハ一の外に善者はなし。爾等時なり。歸に歸るが如し
 こゝろなり。我を擡ぐる勿れ。我なければ我。段を立てるが如し。爾の父と母と
 を敬ふ。答けるハ、是みな我。約より守れる者なり。イエスを信じて曰ける
 人々ハ、我を擡ぐるが如し。爾が如し。我を擡ぐるが如し。我を擡ぐるが如し。我を擡
 じて來り我に敬ふ。曰く、我れ大に當る者なり。し。我れ之を捨てて去り去たり。

見ず其國を捨てて歸る人なるを憐れみ給へり。曰く、我なんぢらに當ん此人
 の故人よりハ我と爲れて歸に歸たり夫すべて自己を高く擡げ給へり。自己
 を卑する者ハ高らるべし。イエスに接せられんがため人々ハ我を羨み來りし
 に弟子たち見て之を賞たり。イエス惡言を唾ひ弟子に曰けるハ、惡言を我
 に浴せし彼等を擡ぐる勿れ。己の歸に歸るハ惡の友と爲るなり。歸に歸るに
 人ハ其親族の歸に歸の風を承るべし。之に人ハ其親族の友と爲る也。○
 夫て曰けるハ、爾等ハ我を擡ぐ。我を擡ぐために我になんぞ行へんや。イエス答に曰
 けるハ、何れが我を擡ぐと爾等ハ一の外に善者はなし。爾等時なり。歸に歸るが如し
 こゝろなり。我を擡ぐる勿れ。我なければ我。段を立てるが如し。爾の父と母と
 を敬ふ。答けるハ、是みな我。約より守れる者なり。イエスを信じて曰ける
 人々ハ、我を擡ぐるが如し。爾が如し。我を擡ぐるが如し。我を擡ぐるが如し。我を擡
 じて來り我に敬ふ。曰く、我れ大に當る者なり。し。我れ之を捨てて去り去たり。

見ず其國を捨てて歸る人なるを憐れみ給へり。曰く、我なんぢらに當ん此人
 の故人よりハ我と爲れて歸に歸たり夫すべて自己を高く擡げ給へり。自己
 を卑する者ハ高らるべし。イエスに接せられんがため人々ハ我を羨み來りし
 に弟子たち見て之を賞たり。イエス惡言を唾ひ弟子に曰けるハ、惡言を我
 に浴せし彼等を擡ぐる勿れ。己の歸に歸るハ惡の友と爲るなり。歸に歸るに
 人ハ其親族の歸に歸の風を承るべし。之に人ハ其親族の友と爲る也。○
 夫て曰けるハ、爾等ハ我を擡ぐ。我を擡ぐために我になんぞ行へんや。イエス答に曰
 けるハ、何れが我を擡ぐと爾等ハ一の外に善者はなし。爾等時なり。歸に歸るが如し
 こゝろなり。我を擡ぐる勿れ。我なければ我。段を立てるが如し。爾の父と母と
 を敬ふ。答けるハ、是みな我。約より守れる者なり。イエスを信じて曰ける
 人々ハ、我を擡ぐるが如し。爾が如し。我を擡ぐるが如し。我を擡ぐるが如し。我を擡
 じて來り我に敬ふ。曰く、我れ大に當る者なり。し。我れ之を捨てて去り去たり。

8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2



Handwritten notes in the top right margin.

Handwritten text in the main body, with red ink used for emphasis and headings.

1811
 1812
 1813
 1814
 1815
 1816
 1817
 1818
 1819
 1820

○イエスの弟子を擧げて之に曰けるハ...

○イエスの弟子を擧げて之に曰けるハ...

○イエスの弟子を擧げて之に曰けるハ...

Handwritten notes in the bottom margin.

Text from the adjacent page on the left, partially visible.

Handwritten text on the right page, likely a continuation of the narrative or commentary.

Main text block containing the primary narrative or commentary in a vertical column.

聖書全書 耶和華 第十九章 白州九卷十九卷八節



8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2

六	人より収たる所めらば四肢にして之を償ふべし イエスに曰けるハ
七	今この酒すりつるリコを待たり蓋この人しアマツハムの冠なれば色
八	すれんの酒ハ赤びびがひびびて銀の環に灰はけ
九	○衆人この言を聞る時と
十	た聖を説て曰り食ハレヤレムに説つゝ衆人衆の衆にマラに
十一	○衆人衆なり 〇あるはカッヤら償地を交て衆んこて
十二	衆人衆に曰けるハ我れとて衆賢てよ
十三	人の言を説て衆賢に金十斤を手て曰けるハ我れとて衆賢てよ
十四	かれを説て衆より衆賢と曰けるハ衆賢の人の人を王とする事な衆賢
十五	衆賢衆て衆賢時々のく 衆賢して衆賢の衆を得たるがな知んこて金を衆
十六	もしたる衆賢をばと命じぬ 衆の一人きたりて曰けるハ主と曰の一斤ハ
十七	十斤の衆を得たり 衆人いひけるハ衆賢と曰ハ少 衆に衆なれば衆の衆
十八	を衆てるべし 衆の一人きたりて曰けるハ主と曰の一斤ハ衆の衆
十九	を得たり 衆人いひけるハ衆し衆の色を衆てるべし
二十	衆一人きたりて
二十一	曰けるハ主と曰の一斤ハ此に交われ衆手

〇衆人衆なり
 〇あるはカッヤら償地を交て衆んこて
 衆人衆に曰けるハ我れとて衆賢てよ
 人の言を説て衆賢に金十斤を手て曰けるハ我れとて衆賢てよ
 かれを説て衆より衆賢と曰けるハ衆賢の人の人を王とする事な衆賢
 衆賢衆て衆賢時々のく 衆賢して衆賢の衆を得たるがな知んこて金を衆
 もしたる衆賢をばと命じぬ 衆の一人きたりて曰けるハ主と曰の一斤ハ
 十斤の衆を得たり 衆人いひけるハ衆賢と曰ハ少 衆に衆なれば衆の衆
 を衆てるべし 衆の一人きたりて曰けるハ主と曰の一斤ハ衆の衆
 を得たり 衆人いひけるハ衆し衆の色を衆てるべし
 衆一人きたりて
 曰けるハ主と曰の一斤ハ此に交われ衆手



1	しむバ	答て主の用なりと曰て	之をイエスに	送來り	已に衣を脱ぎ	に
2	イエスを	其上に	交	イエス	往ける	とき衆人
3	の衣を	地上	に	なり	イエス	
4	エテラレム	に	送	づ	き	御使由を下らんとする
5	時	大衆	に	紳	を	脱て
6	曰ける	ハ				
7	所の	衆	なる	凡	の	衆
8	に	因	て	大衆	に	紳
9	を	脱	て	曰	ける	ハ
10	主	の	名	に	起	て
11	衆	を	衆	に	衆	を
12	衆	を	衆	に	衆	を
13	衆	を	衆	に	衆	を
14	衆	を	衆	に	衆	を
15	衆	を	衆	に	衆	を
16	衆	を	衆	に	衆	を
17	衆	を	衆	に	衆	を

Capitulum 29. Translation - Translation of the text.

8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2 3 4 5 6 7 8 9

聖約全書 第二十章 百四十八至百五十二節 二百廿五

一 長官者民の尊厳を重んずるに、民みな心を留めて、其教を慕ふ
 故に、母べき方を知らざりき。
 二 一日イメヌは、民を教へ、福音を宣しに祭司の長官者長老共に
 送よりイメヌに語て曰けるハ、我々の御心を我々の行い、御この御心
 子たるが我情に於て、答て曰けるハ、我も一言なんぢらに問ふ且われに告
 ぐ、いん子のバツサヌヤハ、我々の御心を我々の行い、御この御心
 答よりと云ハ、然ど何故かれを信ぜざる乎と曰ん、もし人よりと云ハ、民が
 なヨハリを御言者と信ずれば、御心なるに尊んとして、我に告て美よりな
 るが知すと曰り、イメヌ彼等に曰けるハ、我も亦なにの權威を以て之を行
 いか御言に告じ、我ら御言を民に説けり或人、御言をつくり或人に
 説て久しく御心へ往じ、期いたりければ、御言の業を受かん等に、我を
 御心の所に留むけるに、御心をこれに換たしめて、我を御心せたり、また他の
 御心せしに之をも換たし、御心せしめて、我を御心せたり、又三次御心せし

百四十八節
 百四十九節
 百五十節
 百五十一節
 百五十二節

(In the absence of the original, here is an attempt to give the sense of the original, as far as possible.)

1	二一	るが答てて「イヤムなり」と曰、イエス曰けるハ然バカイヤムの物ハカイザ
2	二二	列に掛ル物の後ハ物に掛ル。されハ民の衆に其言を執持す且夫の苦を満
3	二三	そ處て懸然たり○。然バ「人」の衆たりて伊をスに聞け
4	二四	るハ「師」ヨ「モーセ」我僕に背違ハ若人の先「聖」なり子なくして「律」ハ「律」
5	二五	の言を執り子を去て其罪を「負」すべしと。然バ「人」の衆「聞」かんハ「我」子「聖
6	二六	な」を執り子なくして死。第二の者「は」の「衆」を執り子なくして死。第三「も」之を
7	二七	執り七人「聞」く之を執り子なくして死。群に「論」じ死たり。然バ七人「も」
8	二八	比論を「論」せむ故に群に「論」じ時ハ「衆」の「衆」は「衆」に「論」じ死たり。イエス答て曰ける
9	二九	ハ「衆」の子ハ「衆」は「衆」に「論」じ時ハ「衆」の「衆」は「衆」に「論」じ死たり。イエス答て曰ける
10	三〇	乃も「是」も「た」死る「こと」論ざるハ故なり「聖」父の「衆」に「論」じ死たり。イエスの「衆」に「論」じ死
11	三一	子なくして死。さて「衆」の「衆」に「論」じて曰く「衆」の「衆」に「論」じて曰く「衆」の「衆」に「論」じて
12	三二	ラ「ハ」ムの時「イヤサ」の「衆」ケ「プロ」の時「ハ」ムの時「ハ」ムの時「ハ」ムの時「ハ」ムの時
13	三三	衆の時「ハ」ムの時「ハ」ムの時「ハ」ムの時「ハ」ムの時「ハ」ムの時「ハ」ムの時「ハ」ムの時

第二十章 自合王聖書文部

七世三十一

8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2 3 4 5 6 7 8 9



聖書の公理 第廿一章 百四十節至二百廿九節
二百廿八

等こたへ日けるへ御と善いへり 此のち故てイエスに問者なりき○
 イエス彼等に日ける人々知伴なれば ○ 何れを言ふや 言ふは
 イブ 白の露の露にまわが主に日けるへ我なんちの眼を露の足葉と為ま
 我が衣に金すべしと云り 然バオビア之を主と爲たれば知伴で其言な
 る等○我みな之を聽る時々の弟子にいひけるへ 我を衣に
を好みの上にて人の 我を衣に を好む 我を好むをば 我を好む
 等へ 我の衣をひ といはりて 我をなす といはりて 我をなす
 此其言及の餘の者より多く授たり 蓋いれりハ 其の ある所より
 結婦人言におし此婦人不足と云ふより其所有を盡く賜たれば○ また
 彼人衆の美石と 衣 を ひ けて 我を好む ことを 見 じに イエス日けるへ 我
 の見る所のもの石を石の上にも置すやと云ふと云ふらん 彼等と云て日

イ	百四十
イ	百四十一
イ	百四十二
イ	百四十三
イ	百四十四
イ	百四十五
イ	百四十六
イ	百四十七
イ	百四十八
イ	百四十九
イ	百五十
イ	百五十一
イ	百五十二
イ	百五十三
イ	百五十四
イ	百五十五
イ	百五十六
イ	百五十七
イ	百五十八
イ	百五十九
イ	百六十

Handwritten text on the left page, including a heading and several lines of script.



30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100																																								
1000	900	800	700	600	500	400	300	200	100	0	-100	-200	-300	-400	-500	-600	-700	-800	-900	-1000	-1100	-1200	-1300	-1400	-1500	-1600	-1700	-1800	-1900	-2000	-2100	-2200	-2300	-2400	-2500	-2600	-2700	-2800	-2900	-3000	-3100	-3200	-3300	-3400	-3500	-3600	-3700	-3800	-3900	-4000	-4100	-4200	-4300	-4400	-4500	-4600	-4700	-4800	-4900	-5000	-5100	-5200	-5300	-5400	-5500	-5600	-5700	-5800	-5900	-6000	-6100	-6200	-6300	-6400	-6500	-6600	-6700	-6800	-6900	-7000	-7100	-7200	-7300	-7400	-7500	-7600	-7700	-7800	-7900	-8000	-8100	-8200	-8300	-8400	-8500	-8600	-8700	-8800	-8900	-9000	-9100	-9200	-9300	-9400	-9500	-9600	-9700	-9800	-9900	-10000
30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100																																								
1000	900	800	700	600	500	400	300	200	100	0	-100	-200	-300	-400	-500	-600	-700	-800	-900	-1000	-1100	-1200	-1300	-1400	-1500	-1600	-1700	-1800	-1900	-2000	-2100	-2200	-2300	-2400	-2500	-2600	-2700	-2800	-2900	-3000	-3100	-3200	-3300	-3400	-3500	-3600	-3700	-3800	-3900	-4000	-4100	-4200	-4300	-4400	-4500	-4600	-4700	-4800	-4900	-5000	-5100	-5200	-5300	-5400	-5500	-5600	-5700	-5800	-5900	-6000	-6100	-6200	-6300	-6400	-6500	-6600	-6700	-6800	-6900	-7000	-7100	-7200	-7300	-7400	-7500	-7600	-7700	-7800	-7900	-8000	-8100	-8200	-8300	-8400	-8500	-8600	-8700	-8800	-8900	-9000	-9100	-9200	-9300	-9400	-9500	-9600	-9700	-9800	-9900	-10000

二四廿九

8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2



4	オシロイ	オシロイ	オシロイ
5	オシロイ	オシロイ	オシロイ
6	オシロイ	オシロイ	オシロイ
7	オシロイ	オシロイ	オシロイ
8	オシロイ	オシロイ	オシロイ
9	オシロイ	オシロイ	オシロイ
10	オシロイ	オシロイ	オシロイ
11	オシロイ	オシロイ	オシロイ
12	オシロイ	オシロイ	オシロイ
13	オシロイ	オシロイ	オシロイ
14	オシロイ	オシロイ	オシロイ
15	オシロイ	オシロイ	オシロイ
16	オシロイ	オシロイ	オシロイ
17	オシロイ	オシロイ	オシロイ
18	オシロイ	オシロイ	オシロイ

1 其の地を...
 2 地の地を...
 3 地の地を...
 4 地の地を...
 5 地の地を...
 6 地の地を...
 7 地の地を...
 8 地の地を...
 9 地の地を...
 10 地の地を...
 11 地の地を...
 12 地の地を...
 13 地の地を...
 14 地の地を...
 15 地の地を...
 16 地の地を...
 17 地の地を...
 18 地の地を...

8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2

4 BERONIA
 5 BERONIA
 6 BERONIA
 7 BERONIA
 8 BERONIA
 9 BERONIA
 10 BERONIA
 11 BERONIA
 12 BERONIA
 13 BERONIA
 14 BERONIA
 15 BERONIA
 16 BERONIA
 17 BERONIA
 18 BERONIA
 19 BERONIA
 20 BERONIA
 21 BERONIA
 22 BERONIA
 23 BERONIA
 24 BERONIA
 25 BERONIA
 26 BERONIA
 27 BERONIA
 28 BERONIA
 29 BERONIA
 30 BERONIA
 31 BERONIA
 32 BERONIA
 33 BERONIA
 34 BERONIA
 35 BERONIA
 36 BERONIA
 37 BERONIA
 38 BERONIA
 39 BERONIA
 40 BERONIA
 41 BERONIA
 42 BERONIA
 43 BERONIA
 44 BERONIA
 45 BERONIA
 46 BERONIA
 47 BERONIA
 48 BERONIA
 49 BERONIA
 50 BERONIA
 51 BERONIA
 52 BERONIA
 53 BERONIA
 54 BERONIA
 55 BERONIA
 56 BERONIA
 57 BERONIA
 58 BERONIA
 59 BERONIA
 60 BERONIA
 61 BERONIA
 62 BERONIA
 63 BERONIA
 64 BERONIA
 65 BERONIA
 66 BERONIA
 67 BERONIA
 68 BERONIA
 69 BERONIA
 70 BERONIA
 71 BERONIA
 72 BERONIA
 73 BERONIA
 74 BERONIA
 75 BERONIA
 76 BERONIA
 77 BERONIA
 78 BERONIA
 79 BERONIA
 80 BERONIA
 81 BERONIA
 82 BERONIA
 83 BERONIA
 84 BERONIA
 85 BERONIA
 86 BERONIA
 87 BERONIA
 88 BERONIA
 89 BERONIA
 90 BERONIA
 91 BERONIA
 92 BERONIA
 93 BERONIA
 94 BERONIA
 95 BERONIA
 96 BERONIA
 97 BERONIA
 98 BERONIA
 99 BERONIA
 100 BERONIA

聖書 第二卷 第二十章 第二節

二章

1 聖書に記すに、
 2 聖書に記すに、
 3 聖書に記すに、
 4 聖書に記すに、
 5 聖書に記すに、
 6 聖書に記すに、
 7 聖書に記すに、
 8 聖書に記すに、
 9 聖書に記すに、
 10 聖書に記すに、
 11 聖書に記すに、
 12 聖書に記すに、
 13 聖書に記すに、
 14 聖書に記すに、
 15 聖書に記すに、
 16 聖書に記すに、
 17 聖書に記すに、
 18 聖書に記すに、
 19 聖書に記すに、
 20 聖書に記すに、
 21 聖書に記すに、
 22 聖書に記すに、
 23 聖書に記すに、
 24 聖書に記すに、
 25 聖書に記すに、
 26 聖書に記すに、
 27 聖書に記すに、
 28 聖書に記すに、
 29 聖書に記すに、
 30 聖書に記すに、
 31 聖書に記すに、
 32 聖書に記すに、
 33 聖書に記すに、
 34 聖書に記すに、
 35 聖書に記すに、
 36 聖書に記すに、
 37 聖書に記すに、
 38 聖書に記すに、
 39 聖書に記すに、
 40 聖書に記すに、
 41 聖書に記すに、
 42 聖書に記すに、
 43 聖書に記すに、
 44 聖書に記すに、
 45 聖書に記すに、
 46 聖書に記すに、
 47 聖書に記すに、
 48 聖書に記すに、
 49 聖書に記すに、
 50 聖書に記すに、
 51 聖書に記すに、
 52 聖書に記すに、
 53 聖書に記すに、
 54 聖書に記すに、
 55 聖書に記すに、
 56 聖書に記すに、
 57 聖書に記すに、
 58 聖書に記すに、
 59 聖書に記すに、
 60 聖書に記すに、
 61 聖書に記すに、
 62 聖書に記すに、
 63 聖書に記すに、
 64 聖書に記すに、
 65 聖書に記すに、
 66 聖書に記すに、
 67 聖書に記すに、
 68 聖書に記すに、
 69 聖書に記すに、
 70 聖書に記すに、
 71 聖書に記すに、
 72 聖書に記すに、
 73 聖書に記すに、
 74 聖書に記すに、
 75 聖書に記すに、
 76 聖書に記すに、
 77 聖書に記すに、
 78 聖書に記すに、
 79 聖書に記すに、
 80 聖書に記すに、
 81 聖書に記すに、
 82 聖書に記すに、
 83 聖書に記すに、
 84 聖書に記すに、
 85 聖書に記すに、
 86 聖書に記すに、
 87 聖書に記すに、
 88 聖書に記すに、
 89 聖書に記すに、
 90 聖書に記すに、
 91 聖書に記すに、
 92 聖書に記すに、
 93 聖書に記すに、
 94 聖書に記すに、
 95 聖書に記すに、
 96 聖書に記すに、
 97 聖書に記すに、
 98 聖書に記すに、
 99 聖書に記すに、
 100 聖書に記すに、

8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2



十一 其入とこみの歌に應ひて、家の主に歸せんやに云われ、弟子と共に、
 十二 食すべき客、居ハ彼處に在やと曰、然すれば彼等なへたる大なる筈、
 十三 知すべし其處に居、彼等ゆきてイエスの曰給ひたる如く、
 十四 の體を知り、時至ればイエス食に就ぬ、又使徒も共に食たり、
 十五 等に曰けるハ、此を日とて、此に聖書と共に、此を食する
 十六 され、われ聖書に存ん之を神の國に成までハ、飯これを食せじ、
 十七 たり、爾して曰けるハ、之を取て互に分よ、我らんぢらふ、
 十八 ちやハ、葡萄より、~~酒~~のを飲じ、またパンをとり、割して
 十九 曰け、ハ、此の聖書の爲に、予るわが身體より、~~血~~を
 二十 してのち、杯をとり、曰けるハ、此杯ハ、聖書の爲に、~~血~~を
 二十一 飲な、われを食する者の子は、~~血~~と共に、
 二十二 たる、知く、~~血~~ん、~~血~~てし、~~血~~人の子を食す、~~血~~人の體なる
 二十三 なる乎と互に、同、人、また、彼等の中にて、~~血~~長たる者ハ、~~血~~なる

1844. (London, The Society of the Holy Spirit)

8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2

三六 曰けるハ異邦人の王ハ其民を支配す又その上に権を
三六 イエスが彼等に曰けるハ異邦人の王ハ其民を支配す又その上に権を
三五 衆者ノ罪を赦す者と稱らる 然ども爾曹ハ知是すべからず爾曹のうちに大
三五 なる者ハ地が如く首たる者ハ段る者ノ如くなるべし 食に就る者と寧る者
三四 と孰が大なる食に就る者ならずや然ども我ハ爾曹の中に寧る者ノ如し
三四 **ひり** **無罪にして我ハ爾曹に就む者ハ爾曹なり** 我父の我にばげし如く我ト
三三 爾曹に同むを任すべし 此れ爾曹の我父に就て我父に食飲し且位に食して
三三 イメラエムの十二の友と爾心が爲なり **主** また曰けるハレモンレモン
三二 ヲテアン爾曹を蒙て其の如く取んとす 然ども爾の信仰能ざるや爾の
三二 爲に新たり爾 爾人等々の兄弟を蒙せよ **レモン** 曰けるハ主我父にばげし如く
三一 にまでも爾と共に往んことを欲したり イエス曰けるハベテロのれ爾に食
三一 せん今日 **主** 我を蒙るに爾三次我を蒙すと言ん ○ 又彼等に曰けるハ我
三〇 父が飲飲爾をも蒙る爾曹は我父の飲飲をいひ有りしや若けるハ我
二九 父 **イエス** 彼等に曰けるハ今日爾者ある者之をされ飲飲ある者も亦

三六
三六
三五
三四
三四
三三
三三
三二
三二
三一
三一
三〇
三〇
二九
二九

ヨハネの福音書 第二十三章 第二節

ヨハネの福音書 第二十三章 第二節

8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2

聖書の

卷二

第二十九章

二

1	THE FIRST DAY OF MAY	二	然りて
2	THE SECOND DAY OF MAY	三	の中
3	THE THIRD DAY OF MAY	四	の
4	THE FOURTH DAY OF MAY	五	の
5	THE FIFTH DAY OF MAY	六	の
6	THE SIXTH DAY OF MAY	七	の
7	THE SEVENTH DAY OF MAY	八	の
8	THE EIGHTH DAY OF MAY	九	の
9	THE NINTH DAY OF MAY	十	の
10	THE TENTH DAY OF MAY	十一	の
11	THE ELEVENTH DAY OF MAY	十二	の
12	THE TWELFTH DAY OF MAY	十三	の
13	THE THIRTEENTH DAY OF MAY	十四	の
14	THE FOURTEENTH DAY OF MAY	十五	の
15	THE FIFTEENTH DAY OF MAY	十六	の
16	THE SIXTEENTH DAY OF MAY	十七	の
17	THE SEVENTEENTH DAY OF MAY	十八	の
18	THE EIGHTEENTH DAY OF MAY	十九	の
19	THE NINETEENTH DAY OF MAY	二十	の
20	THE TWENTIETH DAY OF MAY	二十一	の
21	THE TWENTY-FIRST DAY OF MAY	二十二	の
22	THE TWENTY-SECOND DAY OF MAY	二十三	の
23	THE TWENTY-THIRD DAY OF MAY	二十四	の
24	THE TWENTY-FOURTH DAY OF MAY	二十五	の
25	THE TWENTY-FIFTH DAY OF MAY	二十六	の
26	THE TWENTY-SIXTH DAY OF MAY	二十七	の
27	THE TWENTY-SEVENTH DAY OF MAY	二十八	の
28	THE TWENTY-EIGHTH DAY OF MAY	二十九	の
29	THE TWENTY-NINTH DAY OF MAY	三十	の
30	THE THirtiETH DAY OF MAY	三十一	の

然りて第一の日の夜目を覚めて初めに立ち出でて人々の
 中に見られて喜ぶと云はれたる此の夜に就て聖なるべしと云はれたる
 事である。此の夜に就て聖なるべしと云はれたる事は、
 エズラに記される如く、「主よ、此に二の可なりとい
 へば、我れも、其の夜に就て初めに立ち出でて人々の
 中に見られて喜ぶと云はれたる事である。」
 此の夜に就て初めに立ち出でて人々の中に見られて喜ぶと云はれたる
 事は、「主よ、此に二の可なりといへば、我れも、其の夜に就て初めに
 立ち出でて人々の中に見られて喜ぶと云はれたる事である。」
 の御りの御心にて、「主よ、此に二の可なりといへば、我れも、其の夜に
 就て初めに立ち出でて人々の中に見られて喜ぶと云はれたる事である。」
 見られるは、「主よ、此に二の可なりといへば、我れも、其の夜に就て初めに
 立ち出でて人々の中に見られて喜ぶと云はれたる事である。」
 多の人々たる又十二の一人たるエズラに就て、「主よ、此に二の可なりといへば、
 我れも、其の夜に就て初めに立ち出でて人々の中に見られて喜ぶと云はれたる
 事である。」
 せんといはれり。エズラに就て、「主よ、此に二の可なりといへば、我れも、其の夜に
 就て初めに立ち出でて人々の中に見られて喜ぶと云はれたる事である。」
 ちの御心に見たる者ども、「主よ、此に二の可なりといへば、我れも、其の夜に就て初めに
 立ち出でて人々の中に見られて喜ぶと云はれたる事である。」

Matthew 27:12-14
Gal. 2:12, 13

Matthew 27

新約全書 馬太福音 第二十二章 自天十五至六十二節

二百四十五

三	二	一	六	五	四	三	二	一
<p>三 聖べき乎 其中の一人は司の長の儀を撃て其右の耳を削落せり イエス</p>	<p>二 撃て之を殺せと曰ふの耳に打て置したり イエス 耳に來し 鞭打の長</p>	<p>一 ちよひ長を手に曰けるハ 御首刃と稱をも持て保史に當が如する乎 何</p>	<p>六 此に御首と稱に鞭に在し時ハ 我に手を擧ぐと 創りき 然るに今ハ 御首</p>	<p>五 の撃つハ 御首の然かり 彼等イエスを執ハ 與て祭司の長の家に請はりベ</p>	<p>四 ンテ 遂に彼のハ 人々中流のうちに火を燃て 筒に 込しければ 火</p>	<p>三 中に 愈したり 彼等ハ 火の傍に 處せるを見 此を 斷て 曰けるハ 此</p>	<p>二 人し 彼と 語に 在し 彼等ハ 水にして 女を 賣 此れを 斷すと 云へり 別創して</p>	<p>一 此の 人も 亦見て 曰けるハ 爾も 彼等の 一人なり 彼等ハ 曰けるハ 人よ 我ハ 斷</p>

8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2 3 4 5 6 7 8 9 1 2

8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2



イニエス	イニエス	イニエス	イニエス	イニエス	イニエス	イニエス	イニエス	イニエス	イニエス	イニエス	イニエス	イニエス	イニエス	イニエス	イニエス	イニエス	イニエス	イニエス	イニエス	イニエス
イニエス	イニエス	イニエス	イニエス	イニエス	イニエス	イニエス	イニエス	イニエス	イニエス	イニエス	イニエス	イニエス	イニエス	イニエス	イニエス	イニエス	イニエス	イニエス	イニエス	イニエス
イニエス	イニエス	イニエス	イニエス	イニエス	イニエス	イニエス	イニエス	イニエス	イニエス	イニエス	イニエス	イニエス	イニエス	イニエス	イニエス	イニエス	イニエス	イニエス	イニエス	イニエス
イニエス	イニエス	イニエス	イニエス	イニエス	イニエス	イニエス	イニエス	イニエス	イニエス	イニエス	イニエス	イニエス	イニエス	イニエス	イニエス	イニエス	イニエス	イニエス	イニエス	イニエス

爾く我のイニエスを譲れる者とし
 曰けるは我を死せしめたるが故に
 平長に民の長老祭司の長老者とし
 けるは爾もしキリストならば我的に
 言とし信ぜざるべし 又たとひ我
 人の下へ大目ある者の台に急せん
 いニエス曰けるは爾が言る如く我
 能んや我何カゴツカ其口より
 此の人の衣を脱ぎて我をカイザルに
 曰けるな見たり 曰ワトイニスに
 答けるは我が言る如し 曰ワト祭司
 我て我あるを見ず 故等ますく 極

8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2 3 4 5 6 7 8 9

<p>マ 101 百六十九節</p>	<p>六 避くユダヤを教へ此處まで來て民を觀せり。ビワトケイワトと稱て此人ハケイワト人なる字を聞。其ヘロアの所管なるを知て之をヘロアに詣る此時ヘロアシエルサレムに在しが、イエスを見て甚だ喜べり諸者憐なる彼が眞實を聞て久く之を見んことを欲ひ且ちの奇異なる事を見んと欲したれば也。是故に多言を以て問ければイエス何とも答ざりき。祭司の長學者たち前に立て切に彼を殺ぬ。ヘロアらの士卒と共に彼を監視明辨して、服を衣せ彼ビワトに詣れり。ビワトとヘロアを以てハルたりしが當日たがいに彼を殺り。○ビワト祭司の長有司なりび民等を呼あつめて、曰けるハ爾等この人を我に携來りて民を觀したる者なりと爲せり彼なんちらが認る所を以て爾等の前に跪せし其罪あるを見ず。ヘロアも亦然り爾等をヘロアに詣せど彼もイエスが行事の死罪に當を見ざりき。故にわれ苦ちて之を釋さん。蓋この時期に必ず一人を釋こと有べなり。爾等みな一罪とばよりて此人を釋き、ヤサを我等に釋せど曰、彼ハ城下に</p>
-------------------------------	--

マ 101
 百六十九節
 七三二

8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2



三十一 彼を殺し人を殺して、獄に入らぬなり。彼にビワトヘイエスを縛さんと欲
 三十二 の彼いへらに曰しや。三十三 彼ら呼りて之を十字架に釘し十字架に懸よと
 三十三 曰。ビワト三たびひけるの聲の聲を打しや。我いよと彼の死際ある
 三十四 を見されバ管ちて行まん。彼等聞く聲をたてし聲を十字架に釘んと言ふ
 三十五 けり。三十六 彼等と記すの聲はなり。ビワトらの水の聞く聲て。彼等が
 三十六 來る一民を殺し人を殺して、獄に入らぬを稱し。三十七 彼等をしてトイエスを
 三十七 けり。彼等イエスを去れと。田園より出される。三十八 彼の聲を
 三十八 聞く。其に十字架を以ててイエスを死にせたり。彼の民もよび聲を
 三十九 けり。彼等へ彼を殺せり。イエス彼等を喚ひひける。メアリームの女子よ
 四十 我母に突なけれ。彼のれと己が子の身に突。三十一 彼等若いよに孕するの胎
 四十一 いまだ増せざるの乳の乳なりと。曰ん。母よ。母らん。三十二 彼等母
 四十二 の上に置し。彼に對て我母ん。彼へと曰ん。三十三 我母ん。三十四 彼等
 四十三 ハ母也。三十五 又。二人の一人をイエスと稱し。死に懸へんとて

三十五節

三十五節

三十五節

三十五節

三十五節

三十五節

三十五節

三十五節

三十五節

三十五節

三十五節

三十五節

三十五節

三十五節

8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2

三十一	あるて曰てエペラレム <small>エペラレム</small> の故人にして曰このころ有し事を知らざる乎 答ける
三十二	ハ何事や之に曰けるハナザレのイエスの事なり此人ハ神と國民の衆に
三十三	於て行と言に大なる能ある預言者なりしが 祭司の長と有司等かれを死
三十四	罪に解して十字架に釘たり 我僕イスラエルを誤はん者ハ此人なりと望
三十五	たりし又され而巳ならず此等の事の成じより今日ハ第三日なるに 我僕
三十六	の中なる或婦たち我例を驚駭せり彼等領ハやく墓に住 ちの屍を見ずし
三十七	て來り天使あらはれて彼ハ應れりと云るを見たりと曾 また我等と語て
三十八	定し我も墓に住たるに婦の言る如にて且かれを見ざりき イエス曰ける
三十九	ハ諸民の凡て言ける事を信する人の罪も怒りなる者よ 十字架に於て
四十	の罪を受けて其榮光に入べきに汝や 故に 我の罪者も皆さへ
四十一	ての彼等と語て已に放ての事ハ辨明されたり 故等ゆく所の村に送さけ
四十二	るに彼ゆき過んと爲る狀をなせば 故等すまめ曰けるハ日戻きて暮に及
四十三	ぬ我的と語に止れ故いりて止る 共に食に飲る時パンとり割して擘か

三十一 路加廿四章
三十二 路加廿四章
三十三 路加廿四章
三十四 路加廿四章
三十五 路加廿四章
三十六 路加廿四章
三十七 路加廿四章
三十八 路加廿四章
三十九 路加廿四章
四十 路加廿四章
四十一 路加廿四章
四十二 路加廿四章

8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2 3 4 5 6 7 8 9

新約全書 福音書 卷之四 自第一卷第十五節 三十四頁

三十一	三十二	三十三	三十四	三十五	三十六	三十七	三十八	三十九	四十	四十一	四十二	四十三	四十四	四十五	四十六	四十七	四十八	四十九	五十	五十一	五十二	五十三	五十四	五十五	五十六	五十七	五十八	五十九	六十	六十一	六十二	六十三	六十四	六十五	六十六	六十七	六十八	六十九	七十	七十一	七十二	七十三	七十四	七十五	七十六	七十七	七十八	七十九	八十	八十一	八十二	八十三	八十四	八十五	八十六	八十七	八十八	八十九	九十	九十一	九十二	九十三	九十四	九十五	九十六	九十七	九十八	九十九	一百
三十一	三十二	三十三	三十四	三十五	三十六	三十七	三十八	三十九	四十	四十一	四十二	四十三	四十四	四十五	四十六	四十七	四十八	四十九	五十	五十一	五十二	五十三	五十四	五十五	五十六	五十七	五十八	五十九	六十	六十一	六十二	六十三	六十四	六十五	六十六	六十七	六十八	六十九	七十	七十一	七十二	七十三	七十四	七十五	七十六	七十七	七十八	七十九	八十	八十一	八十二	八十三	八十四	八十五	八十六	八十七	八十八	八十九	九十	九十一	九十二	九十三	九十四	九十五	九十六	九十七	九十八	九十九	一百
三十一	三十二	三十三	三十四	三十五	三十六	三十七	三十八	三十九	四十	四十一	四十二	四十三	四十四	四十五	四十六	四十七	四十八	四十九	五十	五十一	五十二	五十三	五十四	五十五	五十六	五十七	五十八	五十九	六十	六十一	六十二	六十三	六十四	六十五	六十六	六十七	六十八	六十九	七十	七十一	七十二	七十三	七十四	七十五	七十六	七十七	七十八	七十九	八十	八十一	八十二	八十三	八十四	八十五	八十六	八十七	八十八	八十九	九十	九十一	九十二	九十三	九十四	九十五	九十六	九十七	九十八	九十九	一百
三十一	三十二	三十三	三十四	三十五	三十六	三十七	三十八	三十九	四十	四十一	四十二	四十三	四十四	四十五	四十六	四十七	四十八	四十九	五十	五十一	五十二	五十三	五十四	五十五	五十六	五十七	五十八	五十九	六十	六十一	六十二	六十三	六十四	六十五	六十六	六十七	六十八	六十九	七十	七十一	七十二	七十三	七十四	七十五	七十六	七十七	七十八	七十九	八十	八十一	八十二	八十三	八十四	八十五	八十六	八十七	八十八	八十九	九十	九十一	九十二	九十三	九十四	九十五	九十六	九十七	九十八	九十九	一百

Handwritten Japanese text in the right margin, likely a commentary or translation notes.

